



愛知陸協広報

第60号

令和5年11月30日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号 ハレラニ千代田ビル301

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

令和5年度の下半期を振り返って

副会長 稲垣 裕

新型コロナウイルス感染症の影響による事業の自粛から開放され、競技会が4月に始まり大きなトラブルもなく順調に計画を推進してきました。これも日頃、愛知陸協の大会運営を支えていただいている審判員の皆様方のお陰とご協力に、改めて感謝申し上げます。

さて、今年度は愛知陸協の役員改選の年であり、6期11年にわたりご尽力いただいた稲垣隆司前会長から梅村清英新会長に引き継がれ新しく就任されました。

稲垣前会長にはウィメンズマラソンをはじめ、その他のロードレース、駅伝の運営、県内公認陸上競技場の検定、施設・設備・備品の拡充、充実、選手強化等に並々ならぬお力添えをいただき、協会の発展に寄与していただきました。

新会長は前会長同様、スポーツ界の見識が深く、現在は大学で総長、理事長、学長の要職を歴任され、脈々と連なる若人の夢を実現する機会を創造されています。

また、専務理事は長年、審判委員長、競技委員長を務めた榊原 茂氏が就任いたしました。

2026年のアジア大会成功に向け梅村新体制のもと、新装瑞穂陸上競技場での愛知県選手団の活躍を期待し、全国4位という2万人を超える規模の登録会員である皆様と協会が一丸となり、陸上競技の各種事業に取り組んでまいります。

それでは今シーズンの前半戦の主な競技会における本県選手の活躍を一部紹介します。

その代表的な大会が8月開かれた世界陸上選手権ブダペスト大会であります。男子20kmWで3連覇に挑戦した山西利和選手(愛知製鋼)でしたが、健闘空しく24位に終わりました。この雪辱は来年のパリオリンピックに期待したいと思います。

次に9月～10月にかけて中国・杭州でアジア大会が開かれ、田澤 廉選手(トヨタ自動車)が10000mで4位入賞を果たしました。同選手は7月のタイ・バンコクのアジア陸上選手権においても同種目で堂々の金メダルに輝いております。

次に国内の競技会を見てみます。6月大阪・長居での日本選手権でトエネックの河村一輝選手が1500mで見事優勝。同選手は同種目でアジア大会・アジア陸上選手権にも日本代表で出場し活躍しました。

8月に札幌・厚別で「翔び立て若き翼」北海道インターハイが開かれ、若者の満ち溢れた躍動が見られました。優勝者は、400mHの下田隼人選手(豊川高)、女子100mHと七種競技の2種目で2年連続2冠達成の林 美希選手(中京大中京高)の二人が高校日本一に上り詰めました。努力が実った瞬間であり心より祝福したいと思います。

同じく8月に愛媛で全日本中学選手権があり、女子200mで布施一葉選手(豊橋高豊中学)が見事念願の優勝を飾りました。

9月には横浜・日産スタジアムで全国小学生陸上があり、5年女子100mで内藤琴美選手(キムランニング)が感動の優勝を果たしました。

今年も愛知陸協では有望な若い選手の成長が著しく、今後の活躍を大いに期待したいと思います。シーズンの後半は、ウィメンズマラソンを筆頭にロードレース、駅伝が中心になります。

選手の皆さんが活躍できる環境に配慮し、参加者や応援する県民・市民が一体となって、スポーツを楽しむ事業に成長するよう普及・振興に協会あげて努めてまいります。

全日本大学女子駅伝大会 名城大学7連覇

7年連続8回目の優勝を成し遂げた名城大学(歴代最多優勝は立命館大学の10回)。今大会から競技場スタート&フィニッシュに変更した新コースでの争いは、レース序盤は、立命館と先頭を争う展開。3区中盤からは2位と徐々に差を広げた。全5区間中、総合3位の立命館が3区間で区間賞、名城は2区間で区間賞と圧勝とは言えないレース展開であったが、前大会のメンバー2名を欠いても勝負できる選手層の厚さと、米田勝朗監督の適確な采配が連覇につながったとうかがえる。

東海学連ヘッドコーチ 黒須 雅弘



専門委員会報告

競技委員会

2026年問題

今年も県陸協主催のトラック&フィールドの大会も終了しました。多くの方のご協力により、大会運営が滞りなく行えたことに感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に引き下げられ、これ以降の競技会の運営は、徐々に流行以前の形に戻りつつあります。これからも基本的な感染予防対策をとりながら、安全で円滑な競技運営を心がけていきたいと思っています。

瑞穂スタジアムはアジア大会に向けての建て替え工事のため、2026年の春まで使用できません。このため県陸協主催の多くの競技会をパロマ瑞穂北競技場で開催しています。過去の瑞穂スタジアムでは、2018年に第100回日本選手権、毎年10月にU20・U18日本選手権など全国規模の大会が開催されていましたが、2019年10月の東海高校新人大会を最後に瑞穂スタジアムで開催される東海ブロック以上の大会は無くなっています。

瑞穂北競技場では、施設や用具などの関係で、瑞穂スタジアムがあった時のような競技会運営は難しい状況となり、簡略化されている場面も多くなっています。2026年に瑞穂スタジアムが完成すると、以前のように東海レベルや全国レベルの大会が瑞穂で行われることが予想されます。2026年からの大規模競技会の運営に備えることが必要です。

現在の施設などの状況では準備できることは限られています。できることは県陸協が主催する大会で、大規模大会を意識できる大会運営を行うことかと思われます。具体的には電子機器の積極的活用、アナウンスとの連携、表彰と競技進行との調整、ディレクター方式の競技会進行などです。これらを行うことで運営や機器の問題点を確認し、改善することができ、2026年からの大規模大会の運営に役立つものと思われます。これを行うため、競技委員会では、時間プログラムや競技注意事項の見直しを行う必要があります。また審判編成や情報機器の問題もあり、他の委員会や多くの部署との連携と調整もより大切となります。

みなさんから多くのご意見やアイデアをいただきながら2026年問題に備えていきたいと思っております。今後の競技会運営へのご協力をよろしくお願いいたします。

(安田 純久)

施設・用器具委員会

2023・2024年度 施設・用器具委員会

前号でご紹介できませんでした当委員会の委員を、以下に記します。委員共々よろしくお願いいたします。

(〔 〕は担当競技場)

委員長	JAAF 検定員・AIMS 国内C級自転車計測員 平川 貴之
副委員長	JAAF 技術役員・AIMS 国内C級自転車計測員 南 康次郎〔瑞穂〕 JAAF 技術役員 村瀬 義彦〔豊田〕 中村 昭広〔豊橋〕 松井 祐二〔一宮〕

委員	佐野 幸浩〔蒲郡〕 小島 成稔〔豊川〕 樋口 満蔵〔安城〕 小野尾一乗〔刈谷〕 櫻井 一美〔岡崎〕 鈴木 康雄〔知多〕 八田 定丸〔半田〕 柴田 卓也〔春日井〕 青木 実 砂子間英明 吉越 明 浅井 正久 秦 聖喜 世古 幸弥
	AIMS 国際B級自転車計測員 桑原 義貴

(平川 貴之)

審判委員会

2023年度のシーズンも後半に差し掛かっています。これまでの審判活動へのご協力に対し深く感謝申し上げます。今年度の後期の審判意向調査から、従来への往復はがきによる回答の回収からグーグルフォームを利用した回答の回収へと転換しました。おかげをもちまして、多数の審判員の皆様の御協力により何とかスムーズに集約作業ができました。今後もインターネットを利用した方法で調査をすすめますので、ご理解とご協力をお願いします。往復はがきを利用した方法も引き続き継続しますが、インターネット利用にできる限りご協力ください。

さて、審判資格昇格者の審査の時期が近づいてまいりました。昇格基準に達した方は各地区審判委員長へご連絡願います。参考のために昇格基準を下に示します。

○日本陸連S級昇格基準

種別/条件	年 齢	経 過	経 験
S 級	満55歳以上 1969年 (S44) 4月1日までの 出生者	A級取得後 10年以上 (2014年4月 1日以前にA 級昇格の者)	1. 陸連主催・共催等の 全国的大会に数多く 出席した者 2. 特に審判技術に優 れ、経験豊かな者 3. 陸連・陸協に長年貢 献した者

注意事項

- 1) 審判講習会出席回数の条件は、年1回の出席を原則とする。ただし、少なくとも直近6年間(同一年度は1回としてカウント)で3回以上出席があれば認める場合もある。
- 2) 競技会の出席回数は、各都道府県から申請のある競技会日程に載っている競技会(公認競技会)を基本にカウントする。記載は年度毎(4/1～翌年3/31)の出席回数とする。同一日に複数競技会に出席しても出席回数は1回とする。また直近6年間で30回以上の競技会出席があること。

※障がい者競技会および小学生競技会も競技会出席回数のカウントに含めてよい。

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の講習会が行われず、競技会実施数も激減しました。そのことを考慮し、講習会・競技会の出席回数を直近6年間でカウントすることとします。(2026年度までの措置)

上記のS級昇格に関する日本陸連の基準を受けて、愛知陸協として独自の基準を設けています。S級に関しては陸連の審査があり、基準に達していなければ当然認められません。愛知陸協から推薦した方々は絶対に認められるこ

とを目指して陸連の基準よりやや厳しい基準となっています。また、A級・B級に関しては都道府県陸協に判断が委ねられています。

次に、愛知陸協の審判資格昇格の基準を示します。

○愛知陸協S級・A級・B級昇格のための推薦基準

種別	経験年数	最低年齢	出席日数等の基準
S級	A級取得後10年以上	満55歳以上	○A級取得後 200日以上 *最近5年間の出席日数が毎年10日以上 *最近5年間で全国大会に3日以上 *最近5年間で県大会以上の経験が20日以上 *審判伝達講習会の受講を最近5年間に3回以上
A級	B級取得後10年以上	満28歳以上	○B級取得後 *最近5年間の出席日数が毎年10日以上 *最近5年間で県大会以上の経験が10日以上 *審判伝達講習会の受講を最近5年間に3回以上
B級	実技実習5回以上	満18歳以上	B級取得審判講習会を受講してテストに合格した者

注意事項

1) 最近5年間で6年間に読み替えることもある。

今年度の愛知陸協における審査は12月上旬に予定しています。申請を希望される方は早めに各地区審判委員長までお声掛けください。なお、出席日数等の審査には審判手帳の記録が利用されます。近年はコロナの影響により出席記録をシール式で行っていました。手帳への貼り付けと活動部署の記入を確実にしておいてください。

それでは、今後も愛知県市町村駅伝、読売犬山ハーフマラソン、名古屋ウィメンズマラソン、穂の国豊橋ハーフマラソンなど主要大会が続きますので、引き続きご協力をお願いいたします。

(伊藤 明久)

選手強化委員会

特別国民体育大会(燃ゆる感動かごしま国体)報告

平素より、陸上競技発展のためにご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。さらにこの度の「特別国民体育大会(燃ゆる感動かごしま国体)」愛知県陸上競技選手団の派遣につきまして、格別のご配慮をいただきました各所属の学校・会社・チーム関係者のみなさまに感謝申し上げます。

鹿児島県での国体は本来であれば2020年に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け延期されました。本来であれば『国民スポーツ大会』と名称変更をされる年度でありましたが、特別国民体育大会というかたちで鹿児島島の地で開催されました。コロナ禍を乗り越えた象徴的な大会であり、大会開催に向けた関係者のご尽力に選手団一同、感謝いたしました。

愛知県陸上競技選手団は31種目にエントリーし、19種目において入賞をすることができました。選手は『チーム愛知』の存在感を十分に発揮してくれました。その中でも大会4日目に行われた少年女子A 100mHに出場した林美希選手(中京大中京高)は、8月に行われた全国高校総

体の優勝者としての貫禄と安定感で鹿児島島の地でも優勝を果たし、昨年度から続く全国大会での連続優勝記録をまた一つ伸ばしました。

林選手以外にも連日多くの入賞者を出すことができました。大会初日は、全国大会に入賞している実績のある選手と全国大会に初めて出場する選手が互いを刺激しあい、多くの選手が結果を出してくれました。成年男子3000mSCでは日本選手権入賞者の新家裕太郎選手(愛三工業)が第2位、同じく日本選手権入賞者の藏重みう選手(甲南大)は成年女子100mに出場し第3位、全国高校総体入賞者の少年男子A 棒高跳の谷口海斗選手(中京大中京高)は第3位、少年女子B 100mでは全国中学総体で入賞した佐藤那有選手(田原東部中)は第4位と全国大会入賞者としての実力を遺憾なく発揮してくれました。齋藤悠羽選手(豊橋南高)が少年男子B 走幅跳で第5位、磯部友里亜選手(愛知淑徳高)が少年女子B 円盤投で第7位と、ともに全国大会初出場でしたが全国大会で初入賞を果たしました。チームとしてはこれ以上ないスタートを切り、今までにない盛り上がった雰囲気の中、2日目を迎えることとなりました。

大会2日目は少年男子A 300mに出場した向井悠汰選手(中京大中京高)は予選、決勝と自己記録を伸ばし第4位、少年男子A 走幅跳では平林駿登選手(安城東高)が第6位、小野真大選手(名古屋大谷高)も少年男子B 100mに出場し第5位に入りました。少年女子A 砲丸投に出場し第6位となった山田真央選手(安城学園高)は高校入学後幾度となく全国大会入賞まであと一步のところまで悔し涙を流してきましたが、最後の大会で入賞を果たし、3年間の努力が最後に実を結ぶこととなりました。

大会3日目は、成年男子300mでは吉津拓歩選手(ジーケーライン)が第6位、成年女子300mでは吉田紗弓選手(クレイン)が第8位に入賞し、成年選手の多くの全国大会出場の経験と意地を見せてくれました。この日は少年男子走高跳に出場した加古彩人選手(中京大中京高)も第4位に入賞し、昨年の国体での悔しさを鹿児島島の地で見事に晴らしてくれました。

大会4日目は、全国大会入賞経験を持つ高校生が、3日目までの勢いそのままの活躍してくれました。少年女子A 800mに出場した森千莉選手(豊田大谷高)は第3位入賞、少年女子A 300mHに出場した片山心菜選手(中京大中京高)は予選で愛知県高校新記録を樹立して決勝に進み、決勝でも積極的にレースを運び、第3位に入賞しました。少年男子A 300mHに出場した下田隼人選手(豊川高)も粘りのレースで自己新記録を出して第7位に入賞しました。また少年女子共通走高跳に出場した今浦彩葉選手(中京大中京高)は、高校1年生ながら堂々とした試技の連続で第7位に入賞しました。

大会最終日は、予選、準決勝と危なげなく決勝にコマを進めてきた成年少年女子共通4×100mR(1走佐藤那有選手・2走藏重みう選手・3走岡田翠選手(中京大中京高)・4走吉田紗弓選手)が決勝でも粘りの走り第2位となり、チーム愛知のチームワークと底力を見せてくれました。

陸上競技全体の総合成績では、天皇杯(男女総合)が第6位(91.75点)、皇后杯(女子総合)も第6位(53.75点)でした。天皇杯、皇后杯がともに入賞したことは近年にない結果でした。これらは選手一人ひとりが愛知県の代表であるという自覚を持ち、その力を発揮してくれた成果でし

特別国民体育大会 愛知県選手団競技成績一覧表

男女総合 (天皇杯)		6 位		91.75 点		女子総合 (皇后杯)		6 位		53.75 点		得点	備考
種別	種目	氏名	所属	予選		進決		決勝		順位			
				記録	着	記録	着	記録	順位				
成年男子	100m	山田 佑輔	小島プレス	10.35(+2.1)	3	10.45(+1.6)	7						
	300m	吉津 拓歩	ジーケーライン	32.88	1			33.05	6	3		予選で自己新記録	
	400mH	小田 将矢	豊田自動織機	50.97	5								
	3000mSC	新家 裕太郎	愛三工業					8:35.51	2	7			
	やり投	坂本 達哉	T-LABO					69m43	11				
成年女子	100m	藏重 みう	甲南大	11.79(+1.4)	2	11.74(+1.9)	3	11.71(+1.8)	3	6			
	300m	吉田 紗弓	クレイン	38.12	3			38.83	8	1			
	棒高跳	所 杏子	ラフィネ					3m70	10				
少年男子A	300m	向井 悠汰	中京大中京高	33.56	1			33.33	4	5		予選、決勝ともに自己新記録	
	300mH	下田 隼人	豊川高	37.44	1			36.34	7	2		決勝で自己新記録	
	棒高跳	谷口 海斗	中京大中京高					4m80	3	5		3名が3位のため得点は5点	
	走幅跳	平林 駿登	安城東高					7m24(+1.1)	6	3			
	ハンマー投	市原 想太	愛西工科高					54m84	10				
少年男子B	100m	小野 真大	名古屋大谷高	10.75(-0.5)	1	10.72(+0.7)	3	10.74(+1.4)	5	4		準決勝自己新記録	
	3000m	鈴木 太智	中京大中京高	8:37.51	7			8:33.75	14			予選決勝ともに自己新記録	
	走幅跳	齋藤 悠羽	豊橋南高					6m98(+1.5)	5	4		決勝で自己新記録	
少年男子共通	800m	宮下 颯汰	中京大中京高	2:04.56	6								
	走高跳	加古 彩人	中京大中京高					2m03	4	5			
少年女子A	100m	岡田 翠	中京大中京高	11.96(+1.4)	2	11.89(+1.0)	4						
	300m	平野 里歩	中京大中京高	39.87	2								
	800m	森 千莉	豊田大谷高	2:08.80	4			2:07.46	3	6			
	100mH	林 美希	中京大中京高	13.39(+2.3)	1			13.36(+2.7)	1	8			
	300mH	片山 心菜	中京大中京高	42.37	1			42.64	3	6		予選は県高校記録、自己新記録	
	砲丸投	山田 真央	安城学園高					12m73	6	3			
少年女子B	100m	佐藤 那有	田原東部中	12.05(+1.6)	1	12.00(+0.3)	1	12.05(+1.7)	5	4			
	円盤投	磯部 友里亜	愛知淑徳高					35m56	7	2			
少年女子共通	走高跳	今浦 彩葉	中京大中京高					1m65	7	0.75		7位が4名のため得点は0.75	
	走幅跳	酒井 菜胡	安城学園高					5m60(+2.9)	20				
成年少年男子共通	4×100mR	小野 真大	名古屋大谷高	40.50	4	40.71	5						
		山田 佑輔	小島プレス										
		向井 悠汰	中京大中京高										
		伊藤 弘大	ライオンハート										
成年少年女子共通	4×100mR	佐藤 那有	田原東部中	45.65	1	45.46	1	45.51	2	7			
		藏重 みう	甲南大										
		岡田 翠	中京大中京高										
		吉田 紗弓	クレイン										
成年少年男女混合	4×400mR	下田 隼人	豊川高	3:27.18	2								
		平野 里歩	中京大中京高										
		森 千莉	豊田大谷高										
		吉津 拓歩	ジーケーライン										

た。点数は入賞によって加算されるものですが、入賞できなかった選手もスタンドで声を枯らして応援し、献身的に出場選手をサポートするなど、全員のチームワークがこの結果につながりました。そして、愛知県の陸上競技を応援して下さる方々のおかげとも言える両総合での入賞でした。今年度愛知県の代表として国民体育大会に出場した選手の思いは、来年度以降も引き継がれていくことでしょう。

最後になりますが、今後も本県の陸上競技の競技力向上と普及・発展を目標に強化活動を推し進めていきたいと考えております。ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



愛知県選手団

(明星 光信)

記録情報委員会

トラックシーズンを終えて

第37回愛知県小学生陸上競技選手権大会【11月3日(金・祝)】を終え、2023年度のトラックシーズンは一段落しました。2020年から世界はもちろん日本でも大流行した新型コロナウイルスによって制限のある競技会が行われていたが、本年度から競技会を重ねることに緩和しています。

さて、競技運営も3年前の姿を取り戻しているなか、様々な問題点に気付かされています。中学校の部活動縮小によりクラブチームが増加しており、また、個人でエントリーする方も増加傾向にあり、記録情報委員会として困っていることがあります。それは、申込みの際、所属名の略称が間違っている人が多く、こちらで修正することがあります。略称について下記の例をご覧ください。2024年度はお間違えの無いようにお願いします。また、2023年度で所属の間違いで、多いものをご紹介します。

正式名称・略称の間違いは選手の記録管理に大きく影響を受けることとなります。正確な競技運営・記録申請のためにご協力をお願いします。

例 【正式名】愛知陸上競技協会 ⇒ 【略称】愛知陸協

※個人登録の方は必ず愛知陸協になります。

〇〇大学 ⇒ 〇〇大

△△高等学校 ⇒ △△高

□□中学校 ⇒ □□中

間違いの所属名略称

愛知陸連【愛知陸協は連盟ではない】

アイチリクキョウ【愛知陸協はカタカナ表記ではない】

南中・中部中【地域で読んでいる呼び方】

谷口 直土【個人名になっている】

(谷口 直土)

年誌資料・広報委員会

「愛知陸協広報」61号編集計画

号数	発行月日	編集内容
「愛知陸協 広報」 61号	令和6年 3月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・専務理事のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動報告 ・関係団体の活動報告 ・競技会報告(県小学生、東海高校新人、県中学新人、県中学駅伝、全国中学駅伝、県高校駅伝、東海高校駅伝、全国高校駅伝、東海学生駅伝、市町村対抗駅伝、全国実業団駅伝、都道府県対抗駅伝、名古屋ウィメンズマラソン等) ・理事会等会議報告

(赤尾 和雄)

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

トラックシーズンを終えて

瑞穂北競技場の施設改修工事が今年3月に完了。老朽化したトイレなどとトラック走路の一部張替工事でした。中でも大きく改修されたのは、直線走路の逆走での競技会開催が可能となったことです。当然、ゴール付近の走路延長張替や写真判定装置の切り替え、カメラ設置の調整など、シーズンスタート後も逆走での競技会開催に慎重に対応してまいりました。ご承知のように北陸上競技場の夏は南風の吹く確率が高く、競技場周りもフェンスのみで風の影響も受けやすい構造から、上位大会への参加標準記録突破には選手泣かせの競技場でした。

しかし、今回の改修により選手にとって好条件で高いパフォーマンスが発揮できる会場となったことは関係者として嬉しく思っています。

一例を挙げますと、9月末に開催しました地区選手権男子100mはA.B決勝を行い、予選は16名に絞りました結果、10秒97で走っても決勝ラウンドに駒を進められない厳しい戦いとなりました。更に、10秒51(+0.9)と10秒53(+1.0)と二人が大会記録の更新。決勝では10秒32(+2.5)まで記録を伸ばしてくれましたが追い風参考となり残念でありました。選手にとっては大変有意義な地区選手権大会となりました。なお、当日はU16リレーフェスティバル出場の中学愛知選抜チームも調整練習として参

戦。男子400mRは41秒66の県中学記録更新でした。次年度以降も好条件で競技会が開催できるよう地区陸協も努めてまいります。

一方で選手強化と普及は地区陸上競技協会と名古屋市陸上競技協会の果たす役目と考え、今年も小学生と中学生を対象とした「ふれあい陸上教室」を5回開催しています。これまでもこの教室から全国で活躍する選手を多く輩出しています。



ふれあい教室練習風景

もう一つ、今年新しい行事がスタートしています。全国障害者スポーツ大会名古屋市選手団強化練習会にコーチ派遣と協力です。名古屋市福祉法人・名古屋市総合リハビリテーション事業団のスポーツ振興部から、これまでも練習会を行ってききましたが、より専門的な技術指導を望む声が選手側からあると年度当初相談がありました。それを受け、全国大会に出場選手決定後3回にわたり、走・跳・投の指導者数名を派遣しました。高校生も練習パートナーとして協力してくれた回もありました。指導者は特別支援学校などで陸上指導の経験のある方をお願いしたところ、市の担当者は内容を動画映像に残し、役員で共有し次回に向け準備をするという大変有意義な練習会となりました。更に、参加協力した高校生にも陸上競技に対する考えと思いが、これまでと異なる形で芽生えた機会となりました。10月28日～30日に特別国体と同じ場所(鹿児島)で開催される「特別全国障害者スポーツ大会」に、名古屋市代表選手として出場される皆さんのご活躍をお祈りします。

(水野 久)

尾張陸上競技協会

今年度のトラックシーズンは、暴風雨等の影響もなく無事終わることができました。コロナ禍が過ぎ、有観客での開催は、競技者と観客が一体となる盛り上がる競技会が続きました。そんな中、若い世代の競技者が力を発揮してくれました。全国高校総体では、市原想太選手(愛西工科高)が男子ハンマー投で6位入賞、U18陸上競技大会では、白木康介選手(修文学院高)が男子ハンマー投で3位入賞、水野颯也選手(津島東高)が男子800mで6位入賞と健闘してくれました。

全日本中学陸上競技選手権大会では、男子200mで遠村竜斗選手(永和中)が7位、女子100mで高崎生愛選手(治郎丸中)が8位入賞を果たしました。尾張選手権では、好天に恵まれ尾張新1、大会新4が誕生しました。走幅跳で尾張新・大会新で優勝した梅谷太紀選手(中京大)と200m・400mで優勝した溝口岬希選手(東海学園大学)が

優秀選手に選ばれました。ただ種目によっては参加競技者がかなり減少しただけに、今後の普及が望まれます。

全日本中学陸上競技選手権大会出場選手

男子	100m	北村 聡祐 (祖父江)
		山本 翔太 (古知野)
	200m	達村 竜斗 (永和)
	砲丸投	佐藤 美波 (大口)
女子	100m	吉田 名歩 (大治)
		高崎 生愛 (治郎丸)
	800m	伊藤 暖日 (宮田)

U18 陸上競技大会出場選手

男子	ハンマー投	白木 康介 (修文学院高)
	800m	水野 颯也 (津島東高)

U16 陸上競技大会出場選手

男子	砲丸投	佐藤 美波 (大口中)
女子	100m	吉田 名歩 (大治中)
		高崎 生愛 (稲沢 ACJ)
	1000m	伊藤 暖日 (宮田中)

季節はロード・駅伝シーズンになります。例年、審判員不足に悩んでおります。5年ぶりに犬山ハーフマラソンも開催されます。何卒、ご協力のほど、宜しくお願いします。
(青山 充資)

西三河陸上競技協会

トラックシーズンを終えて ～コロナ禍を乗り越えて～

本年5月、新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類に移行したのを受けて、競技会運営をコロナ以前に戻そうという動きが出てきました。

これまでは『無観客』であった競技会も試行錯誤の中、保護者の正面スタンドやバックスタンドへの入場を解禁し、スタンドからの応援も『拍手』だけであったものから『声出し』の応援に変わり、さらには表彰式も正面スタンド前で実施することにより、競技会そのものに『活気』が戻って

きました。コロナ禍当初は、競技会自体が中止され、選手たちの活躍の場が失われました。日本陸連のガイドラインに従って、競技会が再開されたものの、『無観客』『無声援』で、ただ単に記録を残す競技会で、走ること、跳ぶこと、投げることの“楽しさ”を選手たちが味わうこととはほど遠い競技会からの再開でした。このような状況の中、競技会の準備から当日の運営に携わっていただいた各審判員の先生方のご尽力の結果、何とか以前の競技会の姿を取り戻しつつあることは嬉しく感じております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が治まったわけでもな

く、インフルエンザも例年になく早い流行をみせており、さらには熱中症対策に強いられる今シーズンでした。来シーズンも、感染症や熱中症対策を前提とした競技会運営となりますが、本年度以上に審判員の方々のご協力を得て、『選手ファースト』の競技会が実施できるよう努力していきたいと考えております。

～陸上競技をやってよかった！と思える選手が一人でも増えるために～

(木村 元彦)

東三河陸上競技協会

令和5年度のトラックシーズンを終え、陸上界は駅伝シーズンへと移り変わっています。本年度の東三河陸協では、明るいニュースが多かったです。特に各世代が目標とする大きな大会で「日本一」を獲得できたことに東三河のアスリートのすごさを感じています。この影には、日頃から陸上競技に熱心に取り組む選手や指導者が多いことがあり、そのことも誇りに思っています。

- ・9月17日、神奈川県横浜市で行われた「日清食品カップ第39回全国小学校陸上競技交流大会」で、内藤琴美選手（キムランニング）が、5年女子100mにおいて、13秒20で優勝しました。
- ・8月22日から愛媛県松山市で行われた「第50回全日本中学校陸上競技選手権」で、布施一葉選手（豊橋高豊中3年）が、女子200mにおいて、24秒89で優勝しました。
- ・10月20日から愛媛県松山市で行われた「JOCジュニアオリンピックカップ第54回U16陸上競技大会」で、佐藤那有選手（田原東部中3年）が女子100mにおいて、12秒04で優勝しました。
- ・8月2日から北海道札幌市で行われた「第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会」で、下田隼人選手（豊川高3年）が、男子400mハードルにおいて、50秒14(大会新)で優勝しました。
- ・9月14日から埼玉県熊谷市で行われた「第92回日本学生陸上競技対校選手権」で、小川大輝選手（東洋大）が、男子400mハードルにおいて、48秒91で優勝しました。
- ・6月1日から大阪府大阪市で行われた「第107回日本陸上競技選手権大会」で、小川大輝選手が、男子400mハードルにおいて、49秒52で優勝しました。

このように、小学校から一般において「日本一」となり、活躍する東三河出身の選手が一度にあらわれた令和5年度のトラックシーズンはとんでもない快挙としか言えません。この勢いで駅伝シーズンでも、東三河の小中高の選手、東三河にゆかりのある選手の快走を期待しています。

(石場 治)



バックスタンドからの応援



正面スタンドからの応援

関係団体報告

小学生友の会

“日清食品カップ”第39回全国小学生陸上競技交流大会が横浜・日産スタジアムにて、9月16日(土)17日(日)の2日間で開催されました。1日目は日産スタジアムでの前日練習とカップヌードルミュージアムの見学。ミュージアムではオリジナルカップラーメン作りを楽しみました。2日目の大会当日は青空の下、選手とコーチが協力し合い、どの選手ももてる力を十分に発揮し、競技することができました。5年女子100mでは内藤琴美さん(キムランニング)が13秒20の自己ベストで優勝、6年男子100mでは平岩陸斗君(刈谷AC)が12秒08の自己ベストで2位に入賞しました。今年度はフレンドリーシップパーティーも行われ、他県の選手との交流も楽しみました。



小学生愛知県選手団



平岩陸斗くん

また8月26日(土)に開催された東海小学生陸上競技大会では、愛知県の選手が躍動する姿をたくさん見ることができました。今年度より東海理事に就任された中田有紀さんが、プレゼンターとしてコンバインド競技の表彰を担当されました。



表彰する中田有紀さん

(八代香津子)

中小体連

○全日本中学校陸上競技選手権大会(8/22～25 愛媛)

今年度の愛知県からの出場者数は、男女合わせて67名となりました。

今年の大会成績としては、女子200mで高豊中の布施一葉さんが見事優勝しました。予選から他を寄せ付けない圧巻の走り、勝ち切りました。100mでは、田原東部中の佐藤那有さんが第3位入賞、治郎丸中の高崎生愛さんが第8位入賞、田原東部中は、佐藤さんを擁して400mRでは、第2位と優勝まであと一步のところでした。また、四種競技では、矢作北中の夏目純佳さんが第7位に入賞しました。男子は、110mHで翔南中の権田颯志君が第6位、200mで永和中の遠村竜斗君が第7位、四種競技では、武豊中の矢野春樹君が第5位に入賞しました。

安定しない天候で、雷雨により競技が中断したりする場面がありましたが、競技役員の先生方の迅速かつ適切な判断により、選手は動揺することもなく、落ち着いた雰囲気の中で競技を行うことができました。ありがとうございました。

今大会は、例年になく入賞者も多く、入賞まであと一步の種目もたくさんありました。成果の背景には、日ごろの選手の努力はもちろんのこと、日々指導されている先生方の熱意と指導力、選手のご家族の協力や支えがあったからこそ、このような結果につながったと考えます。また、各地区での小中学生の強化普及活動が確実に結果につながると強く感じます。

中体連陸上競技部として、これからも小学校、中学校、高校の各カテゴリーとの連携やつながりを大切にし、より多くの選手が全国大会に出場し、来年の福井全中では、より多くの選手が活躍できるように、微力ではありますが支えていく所存です。

○2023リレーフェスティバル(10/7～8 国立)

男子が鳥山流生君(豊川西部中)・今村琉翔君(東山中)・今泉成聖君(小坂井中)・横山蓮音君(高橋中)のオーダーで臨み、42秒89で第8位入賞、女子は田中咲有さん(安城西中)・高崎生愛さん(治郎丸中)・布施一葉さん(高豊中)・佐藤那有さん(田原東部中)のオーダーで臨み、46秒90で第3位に入賞することができました。尚、男子は予選において鳥山・今村・今泉・遠村竜斗君(永和中)のオーダーで41秒72をマークすることができました。

○U16陸上競技大会(10/20～22 愛媛)

本大会の結果は、男子は、円盤投で保見中の藤井勇介君が優勝、110mHで翔南中の権田颯志君が第3位、ジャベリックスローで西尾東部中の杉浦丞眞君が第8位に入賞しました。女子は、100mで田原東部中の佐藤那有さんが見事優勝、円盤投で東山中の伏木杏莉さんが第2位、ジャベリックスローで長久手北中の原悠華さんが第6位に入賞しました。

(秋山 真一郎)

高体連

令和5年度を振り返って

令和5年度も愛知県高等学校駅伝競走大会を始め、駅伝競走大会を残すのみとなりました。本年度は全国高校駅伝が、女子の記念大会にあたり、地区代表校枠があります。県勢の活躍を期待したいと思います。

本年度も愛知県高校総体と愛知県新人大会は岡崎市の龍北スタジアムでの開催となりました。県総体ではメインスタンドに、一般の方々は入場禁止の対応をしました。新人戦はメインスタンドも開放して、応援の方々も一緒になって選手の活躍を応援していただきました。競技場の方々を始め西三河陸上競技協会の皆様方には本当にお世話になりました。早朝からのご協力に心から感謝申し上げます。

全国総体は北海道開催でした。北の大地とは思えないような暑さの中での大会でした。前回は寒さに耐えた大会とうかがっていますので、正反対の気候の中での大会でした。大会についての詳細は、別記をご覧ください。

東海新人大会は本来岐阜県開催ですが、岐阜県の競技場の関係から三重県開催となり、三重県営陸上競技場で行われました。本年度は、鹿児島国体、U18/U16 競技会、東海新人大会が3週連続となり、かなりハードなスケジュールでした。棄権する選手も出て、少し盛り上がり欠ける面もありましたが、愛知県代表選手はよく頑張ってくれました。来年度の福岡総体に向けて、東海地区のレベルを知る上でも、貴重な経験になったことと思います。来年の6月に多くのインターハイ選手が誕生することを期待します。来年度の東海総体は岐阜県長良川競技場で開催されます。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行しましたが、なかなか衰えを見せず、またインフルエンザが多くの広がりを見せている中で、選手の皆さんは体調管理が非常に難しい状況になっています。今後とも状況を鑑みながら多くの皆様のご協力の下、よりよい大会運営を目指してまいります。今後とも愛知県高体連陸上競技専門部をよろしくお願いいたします。

(石井 哲郎)

高体連定通部

全国定通大会 愛知県選手団男女総合優勝！

8月に駒沢オリンピック公園陸上競技場にて開催された全国定通大会に於いて、愛知県選手団は男女総合優勝を果たすことができました。昨年度は準優勝でしたので、見事雪辱を果たすことができました。総合優勝という結果は、多くの方々のご理解、ご協力、お力添えがあったからこそであると感じております。また出場選手、各校顧問の先生方が一丸となり、チーム AICHI として競技のみならず、互いに応援し合い、支え合った結果であると確信しております。

今年度、愛知県選手団として優勝は女子走幅跳の糸数さん(豊橋)のみでしたが、多くの種目で取りこぼすこと無く、出場選手が最後まで諦めずに競技に挑んでくれました。女子では細野さん(城北つばさ)が100m、200mで準優勝、400mは田口さん、山根さん、村上さん(科技刈谷)、800mでは石黒さん、田口さん(科技刈谷)佐藤さん(豊橋)、3000mも石黒さん、内山さん(科技刈谷)長

野さん(一宮)が各種目出場選手全員入賞という圧倒的強さを見せてくれました。フィールド種目においても、優勝した糸数さんとともに杉下さん(科技刈谷)が走幅跳で3位入賞、砲丸投も3、4、5位を宮里さん(科技刈谷)、呉屋さん、カンボスさん(豊橋)が、円盤投では岩城さん(城北つばさ)が準優勝、カンボスさんも入賞ということでトラック、フィールドともにしっかりと得点を積み上げ女子総合優勝を果たしました。

男子は優勝した静岡には及びませんでした。長距離種目で上原君(科技刈谷)の1500m、3000mSC(2位)の2種目入賞、濱口君(科技刈谷)の5000m3位等、着実に入賞を重ね、短距離種目個人の決勝進出は金子君(科技刈谷)の400mH2年連続2位のみでしたが、4×100mR、マイルRともに決勝に進出し入賞するなど、愛知としての存在感を示すことができました。フィールドでは男子走幅跳の吉川君(飛鳥未来)が2位、吉田君(熱田)が砲丸投(2位)、円盤投の2種目入賞、走幅跳、三段跳で高木君(科技刈谷)が2種目入賞、三段跳で松浦君(科技刈谷)が入賞など、結果を残すことができ男子は総合4位という結果でした。

今回の全国大会を通じ、改めて部活動の教育的価値、一丸となって目標に立ち向かうことの大切さを実感しました。近年、部活動は縮小の傾向にあります。しかし、運動機会の限られた定時制通信制の生徒にとって部活動というのはかけがえのない活躍の場であり、承認の場、成長の場となっています。レベルは高くありませんが、定時制通信制の生徒が学校の垣根を越えて、力を合わせて、全力を発揮する、日々の学校生活では味わえない爽快感と達成感がここ(定通陸上競技)にはあると感じました。



愛知県選手団

(原田 賢一)

学連

2023 日本インカレから見た学生陸上界の課題

92回目を迎えた日本学生対校(日本インカレ)は、2年前(2021年大会)と同会場の熊谷(9/14~17)にて開催された。同じ熊谷開催ではあったが、当時の社会情勢を振り返ると、いつ元の状態で競技活動ができるのか想像がつかなかっただけに、医療の進歩や科学技術の偉大さを感じた。今大会は、感染症拡大防止を目的とした行動規制が緩和されたのを機に、スタンドには対校戦独特の集団応援をする学生たちの姿が戻り、学生ナンバーワンを決める競技会として相応しい景色であった。また、今回は多くの大学の指導者間で長年議論されてきた大会期間が従来までの3日間から3.5日開催となり、タイムテーブルに余裕がで

き、複数種目のエントリーをする選手のコンディションに配慮されたスケジュールとなった。2019年大会（岐阜）にも3.5日開催で行われたが、審判員の確保や運営費用の増大などを理由に、翌年からは再び3日間開催に戻った経緯を考えると競技団体とチームサイド、双方が譲歩した末で決定した日程であろう。ラウンドやエントリーの数が異なるため同等に扱うことはできないが、5日間開催のインターハイや4日間開催の全日中と比較するとインカレの開催期間もまだまだ見直す余地があるかもしれない。

競技結果は、男女合わせて6つの大会新記録が更新され、そのうち1つが日本タイ記録 / 学生新記録（男子110mH 13.04 / 村竹ラシッド選手・順天堂大）であった。また、女子100mでは甲南大の3選手が上位を独占（400mR 予選では学生記録まで0.01秒に迫る）するなど、実施種目の半数以上で関西や九州地区の大学が優勝する勢力構成は、近年の女子学生陸上競技界を象徴する結果といえる。東海地区の選手は男女混成種目において活躍し、ワールドユニバーシティゲームズ7種競技代表の田中友梨選手（至学館）が順当に勝利、同種目5位に大菅紗矢香選手、6位に水谷佳歩選手（ともに中京大）が入賞した。10種競技では、前川斉幸選手（中京大）が優勝した。

これから駅伝・ロードシーズンに入るが、本号が発刊される頃には、全日本大学女子駅伝（仙台、10/29）が終わっており、史上初の大会7連覇を目指す名城大学と5年連続5回目の東海地区代表となった中京学院大学の力走に期待したい。

表1: 第92回天皇賜杯日本学生陸上競技対校選手権大会
(熊谷、9/14~17) ※東海学連の結果

■男子総合 1位 順天堂大、 混成の部 1位 中京大	
10000mW	6位 鈴木 智大 (名古屋大)
走幅跳	5位 梅谷 太紀 (中京大)
ハンマー投	3位 山川 澁心 (中京大)
10種競技	1位 前川 斉幸 (中京大)
■女子総合 1位 福岡大	
※日体大と同点となり、優勝種目数で福岡大が上回った。	
混成の部	1位 至学館大、 3位 中京大
10000m	5位 原田 紗希、 7位 谷本 七星 (中京大)
10000mW	5位 山岸 芽生、 7位 岡本 瑞香 (中京大)
100mH	5位 安藤 愛未 (至学館大)
7種競技	1位 田中 友梨 (至学館大)
	5位 大菅紗矢香 (中京大)
	6位 水谷 佳歩 (中京大)

(黒須 雅弘)

実業団

トラックシーズンを終えて

トラックの重要競技大会「日本選手権」と「全日本実業団」について、報告します。

まず日本選手権男子では、1500m 日本記録保持者の河村一輝（トーエネック）が、3分38秒45で優勝、野口雄大（トーエネック）が、3分41秒15で6位と健闘。円盤投の湯上剛輝（トヨタ自動車）が、56m78の2位、100mの愛知県記録保持者である本郷汰樹（オノテック）が、10

秒21の5位と健闘し、世界へ羽ばたく大会となった。

女子では、200mの吉田紗弓（クレイン）が、23秒94で7位とファイナリストになった。

全日本実業団の男子は、野口雄大（トーエネック）が、3分43秒16で優勝。日本選手権6位から巻き返しを図った。5000mでは、ジョセフ カランジャ（愛知製鋼）が、13分27秒31で優勝、マル エマニエル（中央発條）が、13分28秒54で3位に。また、3000mSCでは、フィレモン キブラガット（愛三工業）が、8分36秒47で優勝、新家裕太郎が、8分43秒19で2位と、愛三工業が1,2位を独占した。円盤投の湯上剛輝（トヨタ自動車）が、日本選手権と同じ2位。来年度の巻き返しを誓った。

女子では、100mHの大松由季（サンドリオン）が、自身初の13秒切となる12秒97で、世界選手権代表の選手に競り勝ち、来年のパリオリンピックに名乗りを上げた。400mの吉田紗弓（クレイン）も、54秒74の3位と健闘した。

その他の活躍した選手では、400mHの小田将也（豊田自動織機）が、愛知県選手権で49秒29と、11年振りとなる愛知県新記録を叩き出し、来年度のパリオリンピックに弾みをつけた。

(中村 博之)

マスターズ陸上

日頃は愛知マスターズ陸上へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

トラックシーズンも終盤となりました。本年も愛知マスターズの各大会が下記の通り開催されたことをご報告申し上げます。競技運営にご尽力いただきました関係各位に対しまして厚く御礼申し上げます。

本年は4月9日に第88回の記録会を皮切りにトラック競技がスタートし、新型コロナが5類に移行した5月以降は、スタンドから多くの声援をいただきながら参加選手は日頃の練習の成果を大いに発揮することができたと思います。各大会における新記録（日本記録、愛知県記録）の達成者の多さからもその盛り上がりがかがえます。

【令和5年度開催の競技会と新記録】

◆第88回記録会 4月9日（日）ウェーブスタジアム刈谷
愛知県記録

60m	M60	畠中 一起	豊川市	7.98
立五段跳	M40	森本 道範	岡崎市	14m77

◆第89回記録会 5月14日（日）ウェーブスタジアム刈谷
愛知県記録

立五段跳	M65	千葉 正士	蒲郡市	11m17
800m	W65	中山 淳子	名古屋市	2:50.51



河村一輝選手



野口雄大選手

立五段跳 W40 久世由香里 名古屋市 11m49

◆第90回記録会6月25日(日) ウェーブスタジアム刈谷
日本記録

100m W45 酒井あおい 名古屋市 12.44

愛知県記録

60m M70 間瀬 幸男 春日井市 8.80
 100m M70 間瀬 幸男 春日井市 14.08
 800m M55 鶴岡 正明 東郷町 2:16.24
 100m W30 遠山 早織 豊田市 12.23
 200m W30 遠山 早織 豊田市 25.55
 400m W30 遠山 早織 豊田市 58.75
 走幅跳 W30 松井 美樹 豊田市 5m46
 立五段跳 W30 松井 美樹 豊田市 12m56
 立五段跳 W50 釜 純子 一宮市 10m49

◆第91回記録会8月26日(土) ウェーブスタジアム刈谷
愛知県記録

800m M55 鶴岡 正明 東郷町 2:15.04
 立五段跳 M40 井上 将成 蒲郡市 14m94
 立五段跳 M65 千葉 正士 蒲郡市 11m82
 60m W40 沼田 佳苗 豊田市 7.98

◆第32回愛知マスターズ選手権7月2日(日) 一宮

日本記録

4×100mR M50 石黒、盛、野田、前田 45.97
 800m W65 中山 淳子 名古屋市 2:45.54
 1500m W65 中山 淳子 名古屋市 5:28.25

愛知県記録

60m M25 山口 恭平 名古屋市 7.07
 60m M70 間瀬 幸男 春日井市 8.52
 400m M60 杉浦 拓 豊田市 1:00.15
 3000mW M25 櫻井 悠也 日進市 14:58.01
 3000mW M35 中尾 圭 豊田市 16:52.67
 4×100mR M75 外山、足立、四戸、渡邊 1:06.61
 棒高跳 M50 磯貝 剛基 西尾市 3m60
 棒高跳 M60 神田 満 一宮市 2m30
 走幅跳 M-25 酒井 克実 名古屋市 5m99
 立五段跳 M-25 酒井 克実 名古屋市 14m18
 立五段跳 M35 井上 将成 蒲郡市 14m48
 走高跳 W65 木村 和代 武豊町 1m05
 三段跳 W65 木村 和代 武豊町 7m29
 立五段跳 W40 久世由香里 名古屋市 11m61
 立五段跳 W65 木村 和代 武豊町 9m97
 重量投 W75 加藤 敦子 豊川市 9m28

愛知県タイ

走高跳 M40 真鍋 周平 豊田市 1m80

【リレーで日本新 45秒97】

7月2日に開催された第32回愛知マスターズ選手権で、M50クラス(50-54歳)の4×100mRに出場した野田秀樹さん(50歳)、石黒文康さん(50歳)、前田幸則さん(51歳)、盛昭夫さん(52歳)のチームがこの種目の日本記録を樹立しました。(これまでの日本記録は46秒04)

同じクラスで11秒台の走力を持った選手を4人揃えることが難しい中、野田秀樹さんが中心となり実績のあるメンバーに声を掛け最高のチームを結成することができ

M50の日本記録を更新することができました。

その後、44秒47の世界記録の更新を目指して同じメンバーで9月24日に福井で開催された北陸マスターズ選手権に出場しましたが、残念ながら世界記録の更新は成りませんでした。今後の活躍に期待したいと思います。

今後とも、愛知マスターズの活動に、ご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

(兵藤 隆昭)

特集記事

全日本IC 七種競技2連覇

今年度は、全日本ICで2連覇、学生個人選手権で自己ベスト更新、WUGに選出されるなど充実したシーズンであった。

高校3年生の沖縄IHで優勝して以来、記録が伸び悩んだが、昨年よりスプリント強化に一層取り組むことで各種目の記録を伸ばし、自己ベストを何度も更新することができた。全日本ICでは、目標の大会記録には届かなかったものの、得意のやり投で逆転した。調子が良かったにも関わらず結果に結びつかなかった。葛藤の中での2連覇であったが、監督からは、「連覇とはこういうものだ」という言葉をいただき、とても大きな経験となった。WUGは、私自身初の国際試合であり、日本と海外との様々な違いを肌で感じながら多くの学びを得ることができた。これらの経験から、記録や順位にこだわりすぎると却ってプレッシャーになりやすいが、失敗は「気づき」に繋がり、その経験が今後生きるということが分かった。

今、私は「競技を楽しむこと」を1番大切にしていこうと考えている。うまくいかないことも多いが、それも必要なことであり、成長の糧である。今後は、さらにスプリントと得意のやり投、苦手な跳躍種目の強化を図り、日本人初の6000点、そしてオリンピック出場を目指し、日々精進していきたい。



全日本IC 七種競技最終種目800m

(至学館大学 田中 友梨)

2023年シーズンを終えて

今シーズンは私の陸上人生が一変したシーズンでした。私は中学生の時に全国大会に初めて出場しました。しかし、当時は全く戦えず、呆気なく予選落ちをしました。この予選落ちしたということがとても悔しくて「全国優勝したい!」という夢を持つようになりました。

2023年4月、日本学生個人選手権大会の400mHでいきなり全国優勝を果たすことができました。ずっと目標にしていた全国優勝を果たした瞬間は何にも変え難い感情になりました。この大会で優勝したことにより、今シーズンに勢いがついた気がします。

日本学生個人選手権で優勝した勢いそのまま関東インカレ、日本選手権、日本インカレと次々とタイトルを獲得することができました。特に日本選手権で優勝したことは本当に嬉しかったです。真の日本一を決める大会で優勝でき、自信を持てるようになり、もっと上を目指そうという気持ちになれました。

しかし、今年は日本代表になれるチャンスが4度もあったのに全てあと一歩というところで逃してしまいました。これだけタイトルを獲れたにも関わらず、日本代表にはな

れてない。詰めの甘さも感じさせられたシーズンでした。来年はパリ五輪の年です。参加標準記録まであと0.21秒と迫っているの、この勢いそのまま参加標準記録を突破して日本代表としてパリ五輪で勝負できるように頑張りたいと思います。



日本インカレ決勝スタート前

(東洋大学 小川 大輝)

クラブ紹介⑤④ キムランニング “奥三河からの挑戦”

キムランニングは2017年(友の会は2020年～)に発足し、新城市で活動する小中学生を対象としたクラブチームです。主に新城市の小中学生が中心で、近隣の設楽町、東栄町からも入会者(総勢90名)がいます。

練習は毎週水、木曜日の18時から19時40分まで、ふれあいパーク鳳来、日曜日の7時から8時に東海自然歩道で実施しています。

練習は水曜日に各種ドリルを実施後に鬼ごっこ・リレー等、競技力の向上よりも走る楽しさを教えています。木曜日は競技力の向上に重きを置いてラダー・ミニハードル等の器具を使った動きづくりを中心に実施しています。

チームの発足は私が2015年に新城市に来て、ご縁があり鳳来中学校の駅伝練習に参加したことから始まります。

鳳来中は全校生徒数も少なく、その状況で豊橋、豊川の中学校に勝って県大会に出場をするためには小学生から継続した指導が必要だと痛感し、チームの発足に至りました。

近年になり成果が出て、男子、女子共に3年連続で県駅伝大会出場、個人でも今年度の東海大会1年女子800mで3位入賞をしました。

また、中長距離中心のチームですが、小学生では昨年度の混合リレーで県準優勝、今年度の全国大会5年女子100mで全国大会優勝を達成し、我々指導者、チームの子どもたちも盛り上がりました。

今後子どもたちに走る楽しさを伝え、奥三河を盛り上げていきたいです。

アドレス kimurun0618@yahoo.co.jp

(木村 雅幸)



全国優勝 内藤琴美さん



練習後の風景

全国IH観戦記

東海大会を勝ち抜いた選手97名が8月2日から6日の5日間にわたり北海道で行われた全国高校総体に出場しました。



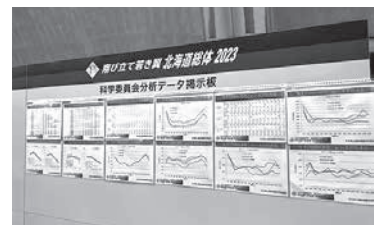
会場の芦別公園競技場

出場した全ての選手が持てる限りの力を発揮してくれましたが、その中でも400mHの下田隼人選手(豊川)、100mH、七種競技の林美希選手(中京大中京)の活躍は輝きを放っていました。

下田選手は、他を圧倒する走りで全国高校総体まで駒を進めましたので全国での活躍にも自ずと期待が膨らみます。そんな矢先、下田選手が前日練習で負傷したとの情報が入ってきました。左足にはテーピングがされており、万全な状態ではないのは確かでした。しかしレースが始まるとそんな不安はよそに圧倒的な強さで予選を勝ち抜き、決勝でも攻め

の走りで優勝を果たすことができました。レース後の歩く姿は痛々しいものでしたが、下田選手の気迫を感じたレースでした。

林選手は、昨年に続き今大会も2種目で優勝し、2年連続2冠の偉業を達成しました。林選手の強さは、競技力はさることながら、どんな状況でも動じない精神力の強さにあります。この大一番の安定感は、中京大中京の他の選手にも同じことが言えます。その背景は、北村先生の周到な準備の賜物であり、選手が安心して競技に打ち込むことができていることが大きな要因だと感じています。



科学委員会も活躍



大活躍の中京大中京

さて、全国高校総体の面白いところは、支部予選から徐々に自己記録を更新して全国でも更に活躍する選手もいるということです。円盤投の井上 稜選手(熱田)と5000m

ホープさん ⑤4

ここな
片山 心菜 選手(中京大中京高等学校 3年)

アドラー心理学では、人間が持つ究極の目標は社会への「所属」であると考えます。自分が望む所属が叶わない時、人は劣等感を感じるのです。劣等感とは能力が低いという自覚ではなく、資質が低く、自らの性格が非適応であると捉えた時などに起こる「自分がうまく所属できていない」という感覚をさします。それを感じると人は苦痛を感じ、所属を実感できないと「仕事や競技に集中できない」、所謂不適応の状態に陥ります。所属を満たすことは幸福を実感させ、心理的な安全性を担保します。その結果として生産性、競技力を高めることに繋がるのです。所属が満たされた時だけ人は幸せを感じ、所属が満たされないと劣等感を感じ、苦痛と不幸でつらい気持ちになります。アスリートは家庭、学校、部、友人など様々な場を持っています。仮にその一つで所属が満たされなくても他で満たされることで所属の危機は緩むものです。所属を実感した時だけ大脳辺縁系が緩み、理性脳である大脳新皮質が動き出し高い水準での欲求が生まれるものとして、中京大中京はチーム力の向上に力を注いでいます。

片山心菜さんは中学時代TSMに所属し、高い水準での指導により満足度、競技力を高め、所属の欲求を満たした条件下で競技をしていました。その競技力を更に高めるため、中京大中京進学を選択して所属することにより、高水準でのコーチング、大学進学保証を求め入学しました。片山さんが求めた本校のコーチングの基本ステップであるGROWモデルは以下の通りです。

コーチングの基本ステップ GROWモデル

GOAL(目標設定)⇒REALITY(現状)⇒RESOURCE(資源確認)⇒OPTION(解決策立案)
⇒WILLCOM(意思の確認)

片山さんの場合

GOAL(全国優勝・大学進学)⇒REALITY(筋肉量の不足、反射に頼る動き)⇒RESOURCE(柔軟な思考力と素直な受け取り、再現力の発揮)⇒OPTION(トレーニング負荷の適正化・ドリルによる再現性の発揮水準・技術の向上)⇒WILLCOM(大会出場・到達できる順位)

片山心菜さんは中京大中京に所属したことで、競技力向上に関する心理的安全性が確保でき、それに従ったトレーニングによりU20日本選手権100mH優勝、インターハイ2位、4×100mR優勝、国体300mH3位、更に青山学院大学進学とGOALを達成しました。

人の成長は学習のみで起こるのではなく、成功体験、失敗体験から起きます。その体験を単なる経験に終わらせるのではなく、活用することで人の成長が加速します。

「そのレースはなぜうまくいったのであろうか」「もしも失敗をやり直すとしたらどうするか」と言った創造的質問をすることで内省を促します。内省を促した原石のような言葉をコーチが磨き出しキーワードとしていくのです。それが「概念化」であり新たな活動を行うことで身体に落とし込み「実践」して成長した選手です。

(北村 肇)



左 片山選手 右 林選手

競歩の永山大志選手（豊明）があげられます。井上選手は東海高校総体は6位、永山選手は5位という結果でインターハイに駒を進めましたが、全国では更に記録を伸ばし井上選手は7位に入賞し、永山選手は決勝に進出することができました。

北海道インターハイでは高校生の無限の可能性を感じました。来年度は、福岡県での開催です。愛知県の高生たちが更に輝けるようにサポートしていきます。

(河村 修一)



男子円盤投2人入賞

全中観戦記

愛媛県総合運動公園（エンジニアスタジアム）にて第50回全日本中学校陸上競技選手権大会 愛媛全中が4日間に渡り開催されました。愛知県からは52校、男子37名、女子30名の選手が全中という大舞台で競技を行いました。



会場の様子

大会期間中は天候に恵まれず、土砂降りの雨によって競技開始時間が変更になるなど、選手にとっては難しいコンディションでした。それでも、開会式での室伏広治スポーツ庁長官の「暑さに負けず全力で取り組んで

ください。」という言葉どおり、天候に負けないほどの盛り上がりとなり、男子110mHで日本中学新記録が誕生するなど、とても白熱した4日間になりました。

愛知県の選手もこれまでの練習の成果を発揮し、男子は3種目3名、女子は4種目5名の選手が入賞を果たしました。なかでも豊橋高豊中の布施一葉選手が女子200mで優勝という大変素晴らしい結果を残してくれました。



開会式の様子



女子200mで優勝した布施選手

来年度は福井県で全国大会が開催されます。全国大会という夢の舞台に向かい、これからの練習を乗り越え、愛知県から1人でも多くの選手が出場し、活躍することを期待しています。

(今枝 厚樹)

競技会報告

アジア陸上選手権2023 2023年7月12日(水)～16日(日) タイ バンコク

男子

種目	順位	氏名	所属	記録
1500m	8	河村 一輝	トーエネック	3:45.46
10000m	1	田澤 廉	トヨタ自動車	29:18.44
円盤投	7	湯上 剛輝	トヨタ自動車	57.85

女子

種目	順位	氏名	所属	記録
4×100mR	2	藏重 みう	甲南大学	43.95 (1走)

ワールドユニバーシティゲームズ陸上2023 2023年8月1日(火)～6日(日) 中国 成都

女子

種目	順位	氏名	所属	記録
七種競技	22	田中 友梨	至学館大学	4670点
10000m	1	田澤 廉	トヨタ自動車	29:18.44
円盤投	7	湯上 剛輝	トヨタ自動車	57.85

第19回世界陸上競技選手権大会 2023年8月19日(土)～27日(日) ハンガリー ブダペスト

男子

種目	順位	氏名	所属	記録
10000m	15	田澤 廉	トヨタ自動車	28:25.85
マラソン	42	西山 和弥	トヨタ自動車	2:17:41
20km 競歩	24	山西 利和	愛知製鋼	1:21:39
35km 競歩	13	丸尾 知司	愛知製鋼	2:29:52

第19回アジア競技大会 2023年9月29日(金)～10月5日(木) 中国 杭州

男子

種目	順位	氏名	所属	記録
1500m	9	河村 一輝	トーエネック	3:44.71
棒高跳		山本 聖途	トヨタ自動車	記録なし

第69回全日本中学校通信陸上競技愛知県大会
2023年7月8日(土)・9日(日) パロマ瑞穂北陸上競技場

男子 (3位入賞のみ)
(HK: 標準記録突破 PJH: 県中学記録 GR: 大会記録)

Table with 4 columns: 種目, 1位, 2位, 3位. Rows include 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 110mH, 4x100mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 砲丸投, 円盤投, 四種競技.

女子 (3位入賞のみ)
(HK: 標準記録突破 PJH: 県中学記録 GR: 大会記録)

Table with 4 columns: 種目, 1位, 2位, 3位. Rows include 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 110mH, 4x100mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 砲丸投, 円盤投, 四種競技.

Table with 4 columns: 種目, 1位, 2位, 3位. Rows include 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 110mH, 4x100mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 砲丸投, 円盤投, 四種競技.

第83回愛知県陸上競技選手権大会
2023年7月15日(土)・16日(日) パロマ瑞穂北陸上競技場

男子 (3位入賞のみ) (GR: 大会新 APR: 愛知県記録)

Table with 4 columns: 種目, 1位, 2位, 3位. Rows include 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 110mH, 400mH, 5000mW, 走高跳.

棒高跳	松嶋 愛太 4.90 中京大	谷口 海斗 4.80 中京大中京高	林本 匠平 4.80 CHUKYOSPIRITS
走幅跳	梅谷 太紀 7.47 中京大	渡邊圭一郎 7.29 トヨタ自動車	田中 瑛一 7.17 東洋大
三段跳	稲田 大空 15.10 東海学園大	鈴木 颯人 14.86 山梨学院大	神谷 海成 14.65 東海学園大
砲丸投	戸澤 廣哉 15.71 岡崎 TFC	藤井ルーカス 15.14 愛知陸協	石井 健史 15.11 三菱重工名古屋
円盤投	久保 博規 47.48 名学院ク	伊藤 蒼真 46.02 中京大	岩田 知大 45.78 筑波大
ハンマー投	小島 諒大 61.41 中京大	岩田 知大 59.70 筑波大	石田 孝正 57.77 EY Japan
やり投	坂本 達哉 72.47 T-LABO	牧野 快士 69.03 T-LABO	豊田 将司 63.79 クックマート
最優秀選手	小田 将矢 豊田自動織機		

第77回愛知県中学校総合体育大会
2023年7月22日(土)・23日(日) パロマ瑞穂北陸止競技場

男子 (3位入賞のみ) (HK:標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	三好 悠介 11.79 豊橋豊城	塚原 優波 11.82 志段味	宮崎 蒼空 12.10 東山
2年100m	北村 聡祐 11.18 HK 祖父江	山本 翔太 11.29 古知野	小島 昊大 11.30 岡崎東海
3年100m	今村 琉翔 11.09 HK 東山	烏山 流生 11.12 HK 豊川西部	横山 蓮音 11.12 HK 高橋
200m	今泉 成聖 22.29 HK 小坂井	遠村 竜斗 22.60 HK 永和	原田 悠暉 22.97 田原
400m	松葉 吉哉 51.44 HK 大高	河合 啄摩 51.90 青陵	山口 遼真 52.25 扇台
800m	鈴木 愛将 2:00.53 三好	柳沢 陸斗 2:01.00 高師台	深津 輝瀧 2:01.65 武豊
1年1500m	山下 凌河 4:33.59 知多	早川 歩 4:33.63 明祥	村瀬 遥希 4:34.39 高蔵寺
2年1500m	西井 健真 4:17.43 大口	石沢 聖成 4:17.46 藤岡	安達蒼一郎 4:18.49 御津
3年1500m	山本 悠晴 4:18.15 旭	中村 仁 4:19.95 美和	水谷 健悟 4:22.15 古知野
3000m	酒井真太郎 9:10.76 大口	水野 悠希 9:10.82 大府西	日比野嵩真 9:15.46 大口
110mH	権田 颯志 14.60 HK 翔南	宮上 純 14.86 HK 朝日丘	谷口 壮太 14.92 HK 吉田方
4×100mR	前林 43.15 鈴木 悠斗 前田 隼汰 古賀 悠透 近藤 祐伍	田原 43.28 原田健太郎 片桐 兜真 原田 悠暉 山口 音夜	桜田 44.37 平塚 和也 前田 爽陽 堀 天人 安藤 太一
低学年4×100mR	古知野 47.18 山本 翔太 伊藤 慎友 登 遥空 木本 愛己	大府 47.81 寺島 凜太 両角 公位 越 琥珀 北沢 連夜	豊川東部 47.94 佐藤 行真 鈴木 陽仁 河合祐之介 鈴木亮太郎
走高跳	矢野 春樹 1.88 HK 武豊	石川 大介 1.79 平坂	横井 悠樹 1.79 豊橋南部
棒高跳	鈴木 脩平 3.80 武豊	真島 達希 3.60 宮田	山本修太郎 3.60 古知野 加藤 櫻大 3.60 知多
走幅跳	久野 巧 6.55 上郷	中元 崇貴 6.44 長久手北	伊藤 健心 6.29 守山東
砲丸投	佐藤 美波 13.58 HK 大口	山口 暁士 13.24 HK 大高	杉本 翔哉 13.02 HK 守山
OP四種競技	和知 志侑 2000 美川	宮川凜太郎 1974 矢作北	東 祥太 1849 矢作北
総合	大口町立大口 32	武豊町立武豊 27	江南市立古知野 26.5

女子 (3位入賞のみ) (GR:大会新)

種目	1位	2位	3位
100m	倉橋 美穂 11.83 青学大	岡田 翠 11.85 中京大中京高	佐藤 那有 11.88 田原東部中
200m	吉田 紗弓 24.27 クレイン	倉橋 美穂 24.30 青学大	鈴木 咲葉 24.86 至学館高
400m	吉田 紗弓 54.11 GR クレイン	平野 里歩 55.06 中京大中京高	中島 明香 55.98 中京大
800m	平野 里歩 2:12.68 中京大中京高	小原すずか 2:13.53 時習館高	長谷川采花 2:14.47 中京大中京高
1500m	若林 藍那 4:36.41 人環大岡崎高	中島 汐葉 4:36.67 人環大岡崎高	火山 華 4:38.20 安城学園高
100mH	大松 由季 13.24 GR CDL	林 美希 13.49 中京大中京高	片山 心葉 13.85 中京大中京高
400mH	夏目 紗彩 1:00.13 日体大	片山 心葉 1:00.56 中京大中京高	和佐田真広 1:01.49 中京大
5000mW	柴田 葵 24:15.60 至学館大	岡田なのは 24:22.76 千種高	松本 梨央 25:00.27 瑞陵高
走高跳	矢野 夏希 1.68 早稲田大	小島 優 1.68 至学館大	神谷 京奈 1.65 東海学園大 今浦 彩葉 1.65 中京大中京高
棒高跳	篠崎 稔里 3.80 至学館大	所 杏子 3.80 ラフィネ陸上部	渡邊 南月 3.70 日体大
走幅跳	明星 光 5.82 中京大	中尾 優里 5.68 小島プレス	酒井 菜胡 5.58 安城学園高
三段跳	加藤 早紀 12.47 FOuR PRO	小寺 波音 12.30 日女体大	稲熊 詩帆 12.15 良友クラブ
砲丸投	山田 真央 12.71 安城学園高	小原 恵 12.45 岐協大	平岩 里彩 11.68 至学館高
円盤投	近藤 沙南 39.95 愛知陸協	徳岡 沙織 39.27 ウェーブ	佐藤 綺海 38.58 至学館大
ハンマー投	平岩 志萌 52.91 筑波大	岡江 未莉 51.94 至学館大	川本菜々香 48.94 三好高
やり投	田中 友梨 46.67 至学館大	堤 陽菜 44.48 国士大	成田 沙穂 44.14 中京大中京高
最優秀選手	大松 由季 CDL		

女子 (3位入賞のみ) (GR:大会新 HK:標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	武井 陽南 13.04 岩倉南部	阿部の葉 13.05 田原東部	間瀬 咲良 13.20 高浜
2年 100m	和佐田るい 12.45 HK 守山北	榎本 実莉 12.53 HK 豊橋東部	八代 理衣 12.64 高橋
3年 100m	佐藤 那有 12.16 GR, HK 田原東部	高崎 生愛 12.37 HK 治郎丸	吉田 名歩 12.48 HK 大治
200m	布施 一葉 24.95 GR, HK 高豊	竹内 沙葉 26.20 末野原	杉山 凜 26.46 代田
1年 800m	熊本みくる 2:25.54 豊川西部	鈴木ひばり 2:25.81 平坂	居沢 清美 2:26.11 鳳来
800m	伊藤 暖日 2:16.17 HK 宮田	粉川シャルワ華 2:16.86 振甫	北川 天咲 2:16.92 長手北
1500m	渡邊 真瑚 4:40.27 千郷	本田 結彩 4:41.13 新香山	馬場 虹羽 4:44.77 江南北部
100mH	蛭川 真奈 14.34 成岩	間瀬 奏波 14.58 幸田南部	三輪 成未 14.71 天神
低学年 4×100mR	春木 52.81 青山 美桜 長瀬 里菜 森 ひな子 上田 采音	尾西第二 53.28 破田野早映 成瀬 愛 小笠原結月 竹中 維	萩山 53.59 青木 めい 酒井ひより 鈴木 瑞彩 武田 蘭香
4×100mR	田原東部 49.13 阿部の葉 澤口 朋実 井筒 夢乃 佐藤 那有	大治 49.33 眞鍋 菜衣 藤本有希奈 渡邊 結衣 吉田 名歩	浄水 49.55 野々村志保 丹羽 陽花 星野 美優 鈴木 日菜夕
走高跳	夏目 純佳 1.54 矢作北	太田多梨愛 1.51 港南	中原明日花 1.51 豊川東部
		原田 樹 1.51 羽田	
走幅跳	伊藤 里桜 5.31 川名	犬飼 心彩 5.22 猪高	奥山 莉奈 5.08 東山
砲丸投	上出 舞華 13.10 HK 高蔵寺	近藤 羽留 12.63 HK 瀬ノ水	片桐 舞 12.36 大高
OP 四種競技	松浦 恰未 2630 HK 御幸山	高寄 心桃 2391 柏原	小松 由奈 2322 浄水
総合	名古屋市立落高 25.5	田原市立田原東部 24	大治町立大治 19

第76回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会
2023年8月2日(水)~6日(日) 北海道札幌市厚別公園競技場

男子 (8位入賞のみ) (GR:大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	2	向井 悠汰	中京大中京	21.02
800m	4	宮下 颯汰	中京大中京	1:50.33
110mH	5	横山 将也	中京大中京	14.33
400mH	1	下田 隼人	豊川	50.14 GR

棒高跳	4	谷口 海斗	中京大中京	5.00
走幅跳	7	平林 駿登	安城東	7.18
円盤投	7	井上 稜	熱田	44.03
	8	根本 睦千	名古屋西	43.69
ハンマー投	6	市原 想太	愛西工科	58.41
	8	河本 雅崇	名古屋大谷	57.07
総合得点	5	中京大中京	21	
トラック得点	5	中京大中京	16	
都道府県 対抗得点	6	愛知県	38	

女子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	6	岡田 翠	中京大中京	12.26
800m	5	森 千莉	豊田大谷	2:07.90
100mH	1	林 美希	中京大中京	13.53
	2	片山 心菜	中京大中京	13.67
4×400mR	4	中澤 愛菜 森 那帆 片山 心菜 平野 里歩	中京大中京	3:41.61
走幅跳	7	酒井 菜胡	安城学園	5.57
七種競技	1	林 美希	中京大中京	5244
総合得点	3	中京大中京	31	
トラック得点	3	中京大中京	23	
都道府県 対抗得点	9	愛知県	37	

第45回東海中学校総合体育大会陸上競技大会
2023年8月8日(火) 三重交通G スポーツの杜伊勢・陸上競技場

男子 (6位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
1年 100m	1	塚原 優波	志段味	11.59
	4	北村早千都	野間	11.85
	6	三好 悠介	豊城	12.04
2年 100m	1	北村 聡祐	祖父江	10.92
	3	星野 月音	田原東部	11.01
	4	浮田 兆	志段味	11.01
	5	小島 昊大	岡崎東海	11.21
	6	山本 翔太	古知野	11.29

3年 100m	2	烏山 流生	豊川西部	11.10
	6	片桐 兜真	田原	11.28
200m	2	今泉 成聖	豊川小坂井	21.72
	4	遠村 竜斗	永和	21.89
	5	原田 悠暉	田原	22.02
	6	平野 桂吾	守山	22.34
400m	6	山口 遼真	扇台	52.76
800m	4	柳沢 陸斗	高師台	2:00.68
2年 1500m	2	石沢 聖成	藤岡	4:13.38
	3	西井 健真	大口	4:18.14
	4	神谷 一希	雁が音	4:18.94
3年 1500m	6	山本 悠晴	旭	4:16.51
3000m	4	稲垣 諒也	矢作北	9:07.11
	5	水野 悠希	大府西	9:08.98
110mH	1	権田 颯志	岡崎翔南	13.81
	3	石川 湊真	武豊	14.44
	5	谷口 壮太	吉田方	14.64
	6	宮上 純	朝日丘	14.70
4×100mR	2	原田健太郎 片桐兜真 原田悠暉 山口音夜	田原	43.20
	6	佐野優心 今泉成聖 菊本絳正 富田悠生	豊川小坂井	44.77
低学年 4×100mR	2	木本愛己 伊藤慎友 中尾臯慈 山本翔太	古知野	46.25
走高跳	1	矢野 春樹	武豊	1.86
	4	石川 大介	西尾平坂	1.80
	5	小櫻 泰成	石尾台	1.80
	6	松浦 悠真	南城	1.80
棒高跳	4	山本修太郎	古知野	3.80
走幅跳	5	久野 巧	上郷	6.15
砲丸投	1	山口 暁士	大高	13.70
	2	佐藤 美波	大口	13.55
	5	杉本 翔哉	守山	12.92
	6	藤井 勇介	保見	12.69

女子		(6位入賞のみ)			
種目	順位	氏名	所属	記録	
1年100m	4	阿部なの葉	田原東部	12.97	
	5	伊藤 桜良	豊川南部	13.11	
2年100m	1	八代 理衣	豊田高橋	12.33	
	5	和佐田るい	守山北	12.63	
	6	榎本 実莉	豊橋東部	12.64	
3年100m	1	佐藤 那有	田原東部	11.76	
	2	高崎 生愛	治郎丸	12.15	
	3	田中 咲有	安城西	12.23	
1年800m	6	山田 紗矢	愛知淑徳	12.46	
	3	居沢 清美	鳳来	2:23.45	
	4	熊本みくる	豊川西部	2:23.53	
800m	6	鈴木ひばり	西尾平坂	2:26.27	
	5	伊藤 暖日	宮田	2:16.44	
1500m	1	渡邊 真瑚	千郷	4:37.17	
100mH	4	蛭川 真奈	成岩	14.32	
	5	三輪 成未	天神	14.52	
	6	間瀬 奏波	幸田南部	14.56	
4×100mR	2	阿部なの葉 澤口朋実 井筒夢乃 佐藤那有	田原東部	49.11	
	3	安保芹菜 入口未悠 伊藤弥生 石原花恋	御幸山	50.17	
	5	西銘風琉 塚原華心 大飼彩子 永坂菜々子	猪高	50.65	
低学年 4×100mR	3	林口穂南 酒井ひより 鈴木瑞彩 武田蘭香	萩山	52.80	
走高跳	2	夏目 純佳	矢作北	1.58	
	3	太田多梨愛	港南	1.55	
走幅跳	4	伊藤 里桜	川名	5.36	
砲丸投	2	片桐 舞	大高	12.70	
	4	上出 舞華	高蔵寺	12.50	

第58回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

2023年8月10日(木)～13日(日) 駒沢オリンピック公園陸上競技場

男子 (3位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
5000m	3	濱口 靖人	科技刈谷	17:18.83
400mH	2	金子 凌空	科技刈谷	1:00.61
3000mSC	2	上原 右大	科技刈谷	10:51.24
走幅跳	2	吉川 遥和	飛鳥未来名古屋	6.42
砲丸投	2	吉田 将隆	熱田	11.36

女子 (3位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	2	細野 乙芽	城北つばさ	13.96
200m	2	細野 乙芽	城北つばさ	28.34
400m	3	田口 貴子	科技刈谷	1:09.36
3000m	3	石黒 志歩	科技刈谷	13:06.30
4 × 100m	2	杉下 凜	科技刈谷	56.30
		今泉 花音	刈谷東昼	
		糸数 香	豊橋	
		細野 乙芽	城北つばさ	
走幅跳	1	糸数 香	豊橋	4.38
	3	杉下 凜	科技刈谷	4.24
砲丸投	3	宮里 日菜	科技刈谷	8.02
円盤投	2	岩城 由侑	城北つばさ夜	23.64

男女総合	1	愛知	150
男子総合	4	愛知	59
男子フィールド	2	愛知	26
女子総合	1	愛知	91
女子トラック	1	愛知	50
女子フィールド	1	愛知	41

第50回全日本中学校陸上競技選手権大会

2023年8月22日(火)～25日(金) 愛媛県総合運動公園陸上競技場

男子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	7	達村 竜斗	永和	22.67
110mH	6	権田 颯志	岡崎翔南	14.46
四種競技	5	矢野 春樹	武豊	2729

女子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	3	佐藤 那有	田原東部	12.17
	8	高崎 生愛	治郎丸	12.40
200m	1	布施 一葉	豊橋高豊	24.89
4 × 100m	2	阿部の葉 澤口 朋実 井筒 夢乃 佐藤 那有	田原東部	48.27
四種競技	7	夏目 純佳	矢作北	2723

第31回日・韓・中ジュニア交流競技会

2023年8月25日(金)・27日(日) 和歌山・紀三井寺公園陸上競技場

男子

種目	順位	氏名	所属	記録
200m 8/25	1	向井 悠汰	中京大中京	21.41
200m 8/27	2	向井 悠汰	中京大中京	21.52
4×100mR 8/25	1	向井 悠汰 (3走)	日本	40.46
4×100mR 8/27	1	向井 悠汰 (3走)	日本	40.02

女子

種目	順位	氏名	所属	記録
100mH 8/25	1	林 美希	中京大中京	14.01
100mH 8/27	1	林 美希	中京大中京	13.80
4×100mR 8/25	2	林 美希 (4走)	日本	46.15
4×100mR 8/27	1	林 美希 (4走)	日本	46.37

第9回東海小学生陸上競技大会

2023年8月26日(土) 静岡・小笠山運動公園陸上競技場

男子 (3位入賞のみ) (GR:大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
小学6年 100m	1	吉井 一平	東浦 AC	12.53
	2	坂川 舜	SCSR	12.67
コンバインド B	2	丸山 太陽	へきなん陸上	2289 GR
	3	谷口 靖弥	トライル AC	2134 GR

女子 (3位入賞のみ) (GR:大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
小学5年 100m	3	飯田 芽生	安城 JAC	14.39

コンバインド A	1	宮園 未莉	大須 AC	2181 GR
	2	川瀬 彩葉	TSM 岡崎	2040
コンバインド B	2	齋藤 由莉	トライル AC	1813

第66回東海陸上選手権

2023年8月26日(土)・27日(日) 静岡県・小笠山総合運動公園エコパスタジアム

男子 (3位入賞のみ) (GR:大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	2	川端 魁人	中京大クラブ	21.13
400m	3	鳥居 大隼	至学館大	48.21
5000m	1	井上 雄斗	志楽園福祉会	14:46.13
	2	深谷 健斗	TPAC	14:50.56
110mH	2	田原 敬悟	立命館大	13.91
3000mSC	2	緒方 航	I.A.R.C	9:43.16
5000mW	1	谷垣 大翔	中京大	20:57.24
4 × 100mR	1	香山 勇輝 小島 拓真 田邊 隼門 鈴木 大河	日本大	39.80 GR
4 × 400mR	2	阪野 颯音 鈴木 蒼生 高原 耀太 加藤 正清	至学館高	3:15.58
走高跳	3	道脇 大斗	OBU エニスポ	2.10
三段跳	3	稲田 大空	東海学園大	15.16
円盤投	1	湯上 剛輝	トヨタ自動車	55.78
ハンマー投	3	岩田 知大	筑波大	60.92

女子 (3位入賞のみ) (GR:大会新)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	2	蔵重 みう	甲南大	11.90
200m	2	蔵重 みう	甲南大	24.54
	3	倉橋 美穂	青山学院大	24.82
400m	2	吉田 紗弓	クレイン	55.17
800m	3	長谷川采花	中京大中京高	2:12.14
1500m	2	火山 華	安城学園高	4:33.04
5000m	1	火山 華	安城学園高	17:13.44
	3	近江 衿香	TTランナーズ	17:34.07
100mH	1	大松 由季	CDL	13.16 GR
	2	木村 加乃	至学館大	13.94
	3	安藤 愛未	至学館大	14.00
5000mW	2	松本 梨央	瑞陵高	24:57.63

4 × 100mR	1	神谷 朱里 佐藤 俐有 鈴木 葉葉 鈴木 虹葉	至学館高	46.24
	2	宮田 愛結 三輪 琉姫 坂本 茜翠 岡田 茜翠	中京大中京高	46.57
4 × 400mR	1	小川 遥妃 佐竹 愛琉 嶋 結菜 真田 あこ	豊橋南高	3:50.84
	3	溝口 岬希 渡邊 由夏 石川 紗衣 矢頭 幸鈴	東海学園大	3:52.86
走高跳	1	小島 優	至学館大	1.68
	2	渡邊 深友	愛知教育大	1.65
	3	今浦 彩葉	中京大中京高	1.65
棒高跳	1	篠崎 稔里	至学館大	3.90
走幅跳	3	明星 光	中京大	5.78
三段跳	1	小寺 波音	日本女子体育大	12.84
	3	加藤 早紀	FOuR PRO	12.24
ハンマー投	2	平岩 志萌	筑波大	53.84
やり投	3	田中 友梨	志学館大	47.89

第44回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会
2023年9月2日(土) パロマ瑞穂北陸上競技場

男子 (3位入賞のみ) (PJH:愛知中学記録)

種目	1位	2位	3位
100m	鳥山 流生 11.10 豊川西部中	今村 琉翔 11.13 東山中	中山 来夢 11.31 二川中
1年 100m	三好 悠介 12.06 ライオンハート	駒月 志成 12.15 豊川西部中	酒井颯太郎 12.21 大口中
2年 100m	浮田 兆 11.26 TSM	山本 翔太 11.30 古知野中	加藤 遼大 11.64 愛知つばきTCA
145m	横山 蓮音 15.73 安城JY	遠村 竜斗 15.80 JSC	今泉 成聖 15.94 小坂井中
1000m	高須 泉希 2:38.69 鶴城中	柳沢 陸斗 2:39.77 高師台中	山本 悠晴 2:40.27 SETPROJECT
3000m	稲垣 諒也 8:58.43 矢作北中	河田 尚輝 9:13.89 瀬戸南山中	本間 翔希 9:21.52 六ツ美北中
110mH	権田 颯志 14.80 翔南中	宮上 純 15.42 朝日丘中	谷口 壮太 15.53 吉田方中
走高跳	石川 大介 1.80 平坂中	矢野 春樹 1.80 武豊中	松浦 悠真 1.80 南城中
棒高跳	山本修太郎 3.80 古知野中	広瀬 瑛士 3.70 大府中	真島 達希 3.70 宮田中
走幅跳	中元 崇貴 6.79 長久手北中	加藤 煌大 6.26 西尾一色中	伊藤 健心 6.25 守山東中
三段跳	荻野 斗駿 13.14 岡崎城西高	角田 知優 13.09 岡崎城西高	大野純之介 12.10 汐路中
砲丸投	佐藤 美波 14.49 大口中	山口 暁士 13.61 大高中	杉本 翔哉 13.29 守山中

円盤投	藤井 勇介 43.60 PJH 保見中	宮地 嵐俄 33.39 福岡中	藤原 敬大 32.84 東山中
ジャベリック スロー	杉浦 承眞 62.77 西尾東部中	前田 樹輝 61.95 御幸山中	小澤 咲公 53.40 守山東中

女子 (3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
100m	佐藤 那有 12.21 田原東部中	高崎 生愛 12.44 稲沢 ACJ	田中 咲有 12.57 安城 JY
1年100m	阿部なの葉 13.30 田原東部中	伊藤 桜良 13.56 豊川南部中	間瀬 咲良 13.58 安城 JY
2年100m	八代 理衣 12.80 高橋中	榎本 実莉 12.95 豊橋東部中	樋口 紗都 13.15 浄水中
145m	布施 一葉 18.05 高豊中	竹内 沙葉 18.80 安城 JY	橋本 葉月 18.82 瀬戸南山中
1000m	伊藤 暖日 3:00.32 宮田中	宇野莉里杏 3:00.51 中京大中京高	江藤 杏奈 3:01.95 刈谷東中
3000m	渡邊 真瑚 10:14.38 YRC	伊藤 静花 10:27.10 守山中	本田 結彩 10:34.15 新香山中
100mYH	蛭川 真奈 14.96 成岩中	水野 心渚 15.14 TSM	矢嶋紗由菜 15.30 大須 AC
走高跳	夏目 純佳 1.60 矢作北中	間瀬 奏波 1.55 TSM 岡崎	太田多梨愛 1.50 港南中
棒高跳	杉澤 愛結 3.00 平坂中	小野江佑月 2.60 末野原中	沼野 七夏 2.40 古知野中
			小島 亜友 2.40 前津中
走幅跳	赤川 恭音 5.45 中京大中京高	伊藤 里桜 5.25 大須 AC	廣瀬 実南 5.18 豊岡中
三段跳	大田 恰奈 10.51 守山東中	安江 渚牙 10.09 守山東中	塚本 愛実 10.07 はとり中
砲丸投	片桐 舞 13.40 大高中	上出 舞華 12.50 TSM	近藤 羽留 11.93 滝ノ水中
円盤投	伏木 杏莉 34.12 東山中	紀國 佑香 30.72 TSM	河戸 咲希 25.96 守山東中
ジャベリック スロー	原 悠華 48.94 長久手北中	加藤 舞佳 43.67 猪高中	佐々木凜娃 41.03 三好高

第92回日本学生陸上競技対校選手権大会
2023年9月14日(木)~17日(日) 埼玉県・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

男子 (本県8位入賞のみ) (NGR:大会新記録)

種目	順位	氏名	所属	記録
1500m	7	高嶋 荘太	環太平洋大	3:51.44
110mH	3	西 徹朗	早稲田大	13.81
400mH	1	小川 大輝	東洋大	48.91
4×400mR	1	小川 大輝 (1走)	東洋大	3:04.08 NGR
	5	富田 大智 (2走)	法政大	3:06.91
1000mW	8	鈴木 智大	名古屋大	43:42.41
走幅跳	4	梅谷 太紀	中京大	7.62
やり投	5	堤 洸太郎	筑波大	71.09

女子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	1	藏重 みう	甲南大	11.76
200m	4	藏重 みう	甲南大	24.37
110mH	5	安藤 愛未	至学館大	13.52
3000mSC	8	服部 七子	同志社大	10:38.16
4×100mR	1	藏重 みう (1走)	甲南大	44.72
	5	倉橋 美穂 (3走)	青山学院大	45.55
三段跳	7	小寺 波音	日本女子体育大	12.62
七種競技	1	田中 友梨	至学館大	5391
	8	酒井 響子	東京女子体育大	5038

日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会
2023年9月17日(日) 神奈川県 日産スタジアム

男子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
6年100m	2	平岩 陸斗	刈谷 AC	12.08

女子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
5年100m	1	内藤 琴美	キムランニング	13.20

2023年度駅伝強化長距離競技会
2023年9月18日(月) 豊川市陸上競技場

男子 (3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
愛知選手権 10000m	井上 優斗 31:01.02 志楽園福祉会	松本 結吐 31:51.87 岐阜協立大	辻 陽介 32:02.08 岡崎高
中学・高校一般 3000m	尾山 賢典 8:52.82 Runup	浮邊 直人 8:53.14 愛知高	市丸 健太 8:43.45 愛知高
高校一般 5000m	阿部 紘也 14:38.20 中部大第一高	小林 晴琉 14:45.82 時習館高	内山 椋太 14:50.11 名経大高蔵高

女子 (3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
愛知選手権 10000m	近江 裕香 37:33.90 TTランナーズ		
中学・高校一般 3000m	平泉 心穂 9:48.51 中部大第一高	近江 裕香 10:13.69 TTランナーズ	渡邊 真瑚 10:14.58 YRC

第71回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
2023年9月22日(金)~24日(日) 岐阜メモリアルセンター長良川競技場

男子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
1500m	1	野口 雄大	トーエネック	3:43.16
	8	西方 大珠	愛三工業	3:47.11

Table with 5 columns: Distance, Rank, Name, Club, Time. Rows include 5000m, 10000m, 3000mSC, 10000mW, 4x100mR, and 円盤投.

Table with 4 columns: Distance, Rank, Name, Club. Rows include 4x100mR, 4x400mR, 走高跳, 棒高跳, 走幅跳, 三段跳, 砲丸投, 円盤投, ハンマー投, やり投, 総合の部, トラックの部, フィールドの部.

女子 (本県8位入賞のみ)

Table with 5 columns: Distance, Rank, Name, Club, Time. Rows include 400m, 1500m, 100mH, 10000mW, 4x100mR, 棒高跳, 三段跳.

女子 (3位入賞のみ)

Table with 4 columns: Distance, Rank, Name, Club. Rows include 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 3000m, 100mH, 400mH, 5000mW, 4x100mR, 4x400mR.

令和5年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会 2023年9月23日(土)・24日(日) マルヤス岡崎龍北スタジアム

男子 (3位入賞のみ) (GR:大会新)

Table with 4 columns: Distance, Rank, Name, Club. Rows include 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 110mH, 400mH, 3000mSC, 5000mW.

走高跳	今浦 彩葉 1.61 中京大中京	鍵谷 優羽 1.61 中京大中京	井坂 優里 1.55 中京大中京
棒高跳	岡部 陽奈 3.10 岡崎	曾我 和花 3.00 中京大中京	宮内 ゆら 2.60 豊川
			椿野 初香 2.60 横須賀
走幅跳	水野文由里 5.65 中京大中京	糟谷 朋葉 5.33 豊橋南	近藤 愛 5.23 岡崎北
三段跳	水軒 恰那 11.53 中京大中京	早川 侑里 11.48 愛知淑徳	仙石 華子 11.42 安城学園
砲丸投	平岩 里彩 11.87 至学館	木下みなみ 11.57 安城学園	安藤瑞七海 10.71 三好
円盤投	安藤瑞七海 41.12 三好	成田 沙穂 35.86 中京大中京	岩田明樺梨 35.83 至学館
ハンマー投	上出 聖華 42.30 名古屋大谷	岩木美夕愛 41.99 三好	向井 祐月 41.83 修文学院
やり投	成田 沙穂 43.55 中京大中京	平岩 里彩 至学館 43.18	佐々木凜娃 41.02 三好
総合の部	中京大中京 128	岡崎城西 36.5	豊橋南 32
トラックの部	中京大中京 78	岡崎城西 33	豊橋南 27
フィールドの部	中京大中京 50	三好 19	至学館 18

高校女子 円盤投	安藤瑞七海 40.41 三好高	津田 麗乃 31.30 瀬戸西高	花井 茉結 29.49 三好高
高校女子 ハンマー投	川本菜々香 50.92 三好高	佐々木安里 43.08 名古屋大谷高	上出 聖華 40.27 名古屋大谷高
高校女子 やり投	佐々木凜娃 37.68 三好高	下山 玲乃 37.36 中京大中京高	鈴木きょうこ 36.11 安城学園高

第107回日本陸上競技選手権リレー競技
2023年10月7日(土)・8日(日) 東京・国立競技場

男子 (本県8位入賞のみ) (CR:大会新記録)

種目	順位	所属	氏名	記録
4 × 400mR	2	法政大	富田 大智 (3走)	3:04.54 CR
	3	早稲田大	竹内 彰基 (4走)	3:04.55 CR

女子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	所属	氏名	記録
4 × 100mR	1	甲南大	藏重 みう (1走)	44.82
	5	青山学院大	倉橋 美穂 (3走)	45.73
	8	中京大	外園 愛梨 (1走) 森下 愛梨 (2走) 福本 萌菜 (4走)	47.09

2023年第1回駅伝強化長距離競技会
2023年10月7日(土) パロマ瑞穂公園北陸上競技場

(3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
男子 3000m	加藤 快都 8:56.27 名経大高蔵高	稲垣 諒也 8:59.01 矢作北中	高田 遥生 8:59.56 中京大中京高
男子 5000m	菅崎 大翔 14:39.01 科技豊田	村山 悠斗 14:47.75 トヨタSC	清水 文晶 14:49.72 TPAC
男子 10000m	塚本 亮 30:38.74 I.A.R.C	緒方 航 31:11.22 I.A.R.C	高橋 佳 31:48.47 I.A.R.C
女子 3000m	林 彩夢 9:45.11 岡崎城西高	平泉 心穂 9:47.20 中部大第一高	火山 華 9:48.10 安城学園高
女子 5000m	原田 采奈 17:09.35 富士松AC	松本 紗直 17:52.17 旭丘高	坂本奈捺未 19:31.66 瑞陵高

2023年投てき競技会
2023年10月7日(土) パロマ瑞穂公園北陸上競技場

(3位入賞のみ)

種目	1位	2位	3位
中学男子 砲丸投	岩淵聡一郎 8.19 AC一宮Junior		
高校男子 砲丸投	兵藤 拓郎 15.23 名古屋大谷高	尾崎 涼 14.41 三好高	奥田 壮志 13.24 名古屋大谷高
高校男子 円盤投	井上 稜 43.44 熱田高	岩瀬 一輝 39.49 三好高	渡邊 豪耶 38.26 惟信高
高校男子 ハンマー投	河本 雅崇 58.26 名古屋大谷高	皆川 朋輝 58.14 三好高	白木 康介 55.50 修文学院高
高校男子 やり投	岩坂レオン 55.18 名古屋大谷高	渡邊 暁成 52.75 熱田高	松野 然 52.27 愛産大工高
高校女子 砲丸投	木下みなみ 11.68 安城学園高	坪井 藍加 9.49 山田高	谷田 空 8.06 瀬戸西高

令和5年度愛知県高等学校定時制通信制秋季陸上競技大会
10月8日(日) 物産フーズサイエンス1969知多スタジアム

男子 (1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
100m	吉川 遥和	飛鳥未来	11.85
200m	加藤 友基	科技刈谷	24.52
400m	高山 陽	科技刈谷	55.93
800m	渡邊 僚一	科技刈谷	2:13.96
1500m	濱口 靖人	科技刈谷	4:39.22
5000m	濱口 靖人	科技刈谷	17:54.86
400mH	金子 凌空	科技刈谷	1:04.34
3000mSC	上原 右大	科技刈谷	10:46.45
4 × 100mR	沼野 靖生 高山 陽 渡邊 夢音 松浦 生	科技刈谷	48.77
4 × 400mR	岡上 忍 原渡邊 右大 加藤 僚一 友基	科技刈谷	3:58.58
走高跳	山本 藍徠	豊橋昼	1.50
走幅跳	吉川 遥和	飛鳥未来	6.35
三段跳	松浦 生	科技刈谷	11.59
砲丸投	吉田 将隆	熱田	10.95
円盤投	吉田 将隆	熱田	28.45
男子総合	科技刈谷		112

女子 (1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
100m	細野 乙芽	城北つばさ昼	14.31
200m	細野 乙芽	城北つばさ昼	30.40

400m	田口 貴子	科技刈谷	1:10.36
800m	石黒 志歩	科技刈谷	2:48.90
3000m	田口 貴子	科技刈谷	12:55.73
100mH	今泉 花音	刈谷東昼	21.17
4 × 100mR	杉下山根石黒宮里 凜彩志歩日菜	科技刈谷	59.98
走高跳	中森さくら	豊橋昼	1.20
走幅跳	糸数 香	豊橋昼	4.25
砲丸投	宮里 日菜	科技刈谷	7.56
円盤投	カンボス杏奈	豊橋昼	20.84
女子総合	科技刈谷		79

4 × 100mR	2	遠山新垣山菅沼 実希舞朱瑠璃	トヨタ自動車	50.01
走高跳	3	中島 梨里	豊田自動織機	1.45
走幅跳	1	中尾 優里	小島プレス	5.49
	2	菅沼 瑠璃	トヨタ自動車	5.17
三段跳	1	加藤 早紀	フォープロ	12.40
砲丸投	3	古川瑛利奈	豊田自動織機	8.37
円盤投	3	日高 千鶴	トヨタ自動車	38.20
やり投	2	三輪ダリヤ	IWATA	35.18
	3	平岩 万実	J R東海	34.41

第24回中部実業団陸上競技選手権大会
2023年10月7日(土)・8日(日) 多治見市運動公園星ヶ台競技場

男子 (本県3位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	3	新城 健斗	トヨタ自動車	22.10
400m	2	松枝 久史	小島プレス	49.77
800m	2	木屋川内浩二	トヨタ自動車	1:57.13
	3	日高 徹	I.A.R.C	1:58.40
1500m	3	松原 栄一	I.A.R.C	3:59.28
5000m	1	上田 泰輔	三菱自動車岡崎	14:48.90
	3	松原 栄一	I.A.R.C	14:54.20
10000m	1	マル イマニエル	トヨタ紡織	27:21.99
	2	ジョセフ カランジャ	愛知製鋼	27:22.20
	3	コリルフェリックス	トヨタ自動車	27:46.87
110mH	3	吉川 瑛亮	ソフオエテクノロジー	14.61
400mH	2	岡戸 祐太	TFO	56.44
5000mW	1	寺島 智春	豊田自動織機	24:29.67
4 × 100mR	2	千田勇司 渡邊圭一郎 山西練英幸 家田	トヨタ自動車	41.72
	3	宮長拓希 塩澤健太 道脇大斗 長谷川勇飛	OBU エニスポ	44.05
走高跳	1	道脇 大斗	OBU エニスポ	2.00
	3	牧村 尚磨	デンソー刈谷	1.90
走幅跳	3	渡邊圭一郎	トヨタ自動車	6.83
三段跳	3	坂本九十九	トヨタ自動車	13.88
円盤投	1	湯上 剛輝	トヨタ自動車	55.69
	3	久保 博規	JFE チュービック	45.33
やり投	2	坂本 達哉	修文大学教	66.45

女子 (本県3位入賞のみ) (NGR:大会新記録)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	1	大松 由季	サンドリヨン	11.95
	2	吉田 紗弓	クレイン	12.03
100mH	1	大松 由季	サンドリヨン	13.11 NGR
5000mW	1	高柳 百花	トヨタ自動車	30:47.19

第17回U18・第54回U16陸上競技大会
2023年10月20日(金)~22日(日) 愛媛県総合運動公園陸上競技場

U18 男子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
300m	2	浅井 央真	瑞陵高	33.76
800m	4	鈴木 太智	中京大中京高	1:53.29
	6	水野 颯也	津島東高	1:53.74
300mH	3	鈴木 哉汰	名古屋大谷高	37.18
	4	原 壮輝	三好高	37.51
棒高跳	1	谷口 海斗	中京大中京高	5.02
三段跳	3	中村 光希	名城大附高	14.60
円盤投	6	岩瀬 一輝	三好高	42.08
ハンマー投	3	白木 康介	修文学院高	59.11
	4	河本 雅崇	名古屋大谷高	58.45

U18 女子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	3	岡田 翠	中京大中京高	11.99
800m	7	都築優衣華	岡崎城西高	2:19.09
1500m	8	林 彩夢	岡崎城西高	4:32.31
3000mW	3	寺本 瑛美	旭丘高	13:51.23
走幅跳	6	水野文由里	中京大中京高	5.71
砲丸投	3	木下みなみ	安城学園高	12.18
円盤投	6	安藤瑞七海	三好高	38.21
やり投	3	平岩 里彩	至学館高	45.66

U16 男子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
110mH	3	権田 颯志	岡崎翔南中	14.30
走幅跳	2	齋藤 悠羽	豊橋南高	6.91
円盤投	1	藤井 勇介	保見中	46.80
ジャベリック スロー	8	杉浦 丞真	西尾東部中	61.96

U16 女子 (8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	1	佐藤 那有	田原東部中	12.04
円盤投	2	伏木 杏莉	安城東山中	34.90
ジャベリック スロー	6	原 悠華	長久手北中	44.61

第66回東海陸上選手権

2023年10月28日(土) 三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場

男子 (愛知県選手の上位3名)

種目	順位	氏名	所属	記録
10000m	4	辻 陽介	岡崎高	31:47.54
	5	松本 結叶	岐阜協立大	31:51.94
	10	佐藤 佑	I.A.R.C	33:18.09

愛知県選手権を兼ねる。なお、女子選手の参加はありませんでした。

59号の競技会報告に不備がありましたので再掲します。

第39回U20日本陸上競技選手権大会

2023年6月1日(木)~4日(日) 大阪・ヤンマースタジアム長居

男子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
200m	3	向井 悠太	中京大中京高	21.35
800m	1	盛 耕太朗	東海学園大	1:51.68
	3	山田 直希	東海大	1:52.01
	7	宮下 颯汰	中京大中京高	1:54.83
400mH	3	下田 隼人	豊川高	51.72
	6	押田 周真	岡崎北高	53.49
走幅跳	4	森部 諒	名城大附高	7.29
ハンマー投	5	神戸 良介	岐阜協立大	60.73

女子 (本県8位入賞のみ)

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	6	倉橋 美穂	青学大	12.08
200m	2	蔵重 みう	甲南大	23.96
	5	倉橋 美穂	青学大	24.62
800m	1	平野 里歩	中京大中京高	2:09.34
1500m	8	吉田 莉帆	豊田自動織機	4:28.06
100mH	1	片山 心菜	中京大中京高	13.58
400mH	5	和佐田真広	中京大	1:00.13
	6	中島 明香	中京大	1:00.43
	8	夏目 紗彩	日本体育大	1:02.25

理事会等会議報告

○8月理事会 令和5年8月10日(木)

1. 協議事項

- ① 特別国民体育大会愛知県代表選手団(役員・選手)の選考について
- ② その他

2. 報告事項

- ① 特別国民体育大会代表選手強化合宿について
- ② マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2024について
- ③ 第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会の成績について

- ④ 第50回全日本中学生陸上競技選手権大会出場者について
- ⑤ 第39回全国小学生陸上競技交流大会出場者について
- ⑥ 各専門委員会より
- ⑦ 各地区陸上競技協会より
- ⑧ 各協力団体より
- ⑨ その他

(水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

去る10月14日(土)「燃ゆる感動 かがしま国体」におきまして令和4年度日本陸連「秩父宮章」授与式が行われ、本県からは杉山裕二氏が受賞、表彰されました。



(水野 隆夫)

おくやみ

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝者氏名	逝去年月	地区名
中村 智	R5・10	名古屋

編集後記

◇この夏、国際大会が続きました。◇来年は早くもパリオリンピックが開催されます。◇駅伝やロードレースが始まります。選手の一層の活躍を祈念いたします。

編集委員

赤尾 和雄	大西 敏功	小坂 拓	鈴木人呂信
竹前 正直	茶谷 和彦	新見 精三	秦 聖喜
兵藤 重二	山下ゆかり		